**公認スポーツクライミングコーチ**

**関係規程・規約および検定基準**

（コーチ１・２・３・４）

【令和３(２０２１)年度改訂】

公益社団法人　日本山岳・スポーツクライミング協会

目　　　次

[スポーツクライミング指導者規程・規約 2](#_Toc38373317)

[スポーツクライミング指導者規程解説 5](#_Toc38373318)

[スポーツクライミング指導者認定規約 7](#_Toc38373319)

[指導者登録及び更新登録に関する規約 10](#_Toc38373320)

[指導者登録及び更新登録に関する規約解説 12](#_Toc38373321)

[指導者養成講習会及び検定会実施手続き要領 25](#_Toc38373322)

[公認主任検定員認定規約 27](#_Toc38373323)

[主任検定員制度解説 29](#_Toc38373324)

[指導者更新登録のための研修（義務研修）の申請から承認および実績の入力 32](#_Toc38373325)

[資格の再登録手続きについて 34](#_Toc38373326)

[公認スポーツ指導者資格再登録にかかる事務手続き手順 35](#_Toc38373327)

[公認スポーツ指導者管理システムの利用について 36](#_Toc38373328)

[公認スポーツ指導者の登録事項変更手続きについて 39](#_Toc38373329)

[公認スポーツ指導者等表彰要項 41](#_Toc38373331)

[公認スポーツ指導者資格制度 43](#_Toc38373332)

[公認スポーツクライミングコーチ検定基準（コーチ１・コーチ２） 48](#_Toc38373333)

[別添資料 66](#_Toc38373334)

[別添1：スポーツクライミングコーチ1養成講習会認定申請者　クライミング履歴書（記入例） 67](#_Toc38373335)

[別添2：スポーツクライミングコーチ1養成講習会認定申請者　クライミング履歴書 68](#_Toc38373336)

[別添3：スポーツクライミングコーチ2養成講習会認定申請者　クライミング履歴書（記入例） 69](#_Toc38373337)

[別添４：スポーツクライミングコーチ2養成講習会認定申請者　クライミング履歴書 70](#_Toc38373338)

[別添5：スポーツクライミングコーチ1検定得点表 72](#_Toc38373339)

[別添6：スポーツクライミングコーチ2検定得点表 73](#_Toc38373340)

# スポーツクライミング指導者規程・規約

（指導者の定義）

第１条 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会指導者とは、公益財団法人日本スポーツ協会及び公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（以下公益財団法人日本スポーツ協会をJSPO、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会をJMSCAという）によって認定されたものをいう。

２ 指導者の称号は、JSPO・JMSCA公認スポーツクライミング指導者(以下指導者という)という。

３ 指導者の名称は、公認スポーツクライミングコーチ１・公認スポーツクライミングコーチ２・公認スポーツクライミングコーチ３・公認スポーツクライミングコーチ４と称する。（以下それぞれコーチ１・コーチ２・コーチ３・コーチ４という）

（指導者の本質）

第２条 指導者のうちコーチ１及びコーチ２は、“安全・確実にかつ楽しいクライミング”を指導できる人であり、コーチ３及びコーチ４は、“クライマーの競技能力の指導育成とクライミング指導方法の研究・実践”ができる人でなければならない。

（指導者の任務）

第３条 指導者は、スポーツクライミング界のリードオフマンたる自覚をもち、クライマー及びクライミング活動組織の育成と指導を行い、安全なクライミング技術及び指導方法の研究・正しい知識・クライミング技術・競技全般に関わる指導を行う。

２コーチ１の任務

コーチ１は、地域・スポーツクラブ・学校登山部等の指導者として事業計画の運営をするとともに、子供から経験の少ないクライマーにクライミングの専門的知識を生かした指導を行い、あわせて都道府県市区町村（以下都道府県市区町村を自治体という）・都道府県市区町村体育協会（以下都道府県市区町村体育協会を自治体々協という）・都道府県山岳連盟（協会）（以下都道府県山岳連盟（協会）を岳連（協会）という）または傘下の山岳団体が主催するイベントの運営及び指導をする。

具体的には、以下の任務を行う。

（１）地域・スポーツクラブ・学校登山部等のクライマーの指導と基礎的なクライミング技術の指導

（２）地域・スポーツクラブ・学校登山部等における運営

（３）自治体・自治体々協または岳連（協会）及び傘下の山岳団体が主催するイベントの運営と参加

（４）クライミング技術の研究

３コーチ２の任務

コーチ２は、地域・スポーツクラブ・学校登山部等の中心的指導者として事業計画の企画立案運営をするとともに、年齢・経験及び技術レベルに応じた指導等を行い、自治体・自治体々協または岳連（協会）及び傘下の山岳団体が主催するイベントの企画立案運営を行う。

具体的には、以下の任務を行う。

（１）比較的高度なクライミング技術の専門的指導

（２）地域における企画立案運営

（３）地域のクライマーの指導

（４）地域における長期一貫のトレーニングの立案と実践面での指導

（５）地方競技団体における指導的役割

（６）自治体・自治体々協または岳連（協会）が主催するイベントの企画立案運営と参加

（７）クライミング技術の研究とスポーツ研究者との連携

（８）コーチ１及びコーチ１候補者の育成

（９）各指導者との連携

４ コーチ３の任務

コーチ３は、地域においてスポーツクライミングのための指導を行うとともに、スポーツ施設や団体において有望なクライマーの育成にあたる。

具体的には、以下の任務を行う。

（１）クライミング技術の専門的指導と指導法の研究

（２）クライマーの特性に応じたクライミング及び競技能力向上のための指導

（３）クライミング技術の研究とスポーツ研究者との連携

（４）世界のクライミングの動向（規則・競技力・用具・競技・戦術等）の分析及びそれらに対応した

戦術法の研究

（５）中央競技団体における指導的役割

（６）ナショナルイベントにおける競技者の指導

（７）長期一貫のトレーニングの立案と実践面での指導

（８）コーチ１及びコーチ２の育成

（９）各指導者との連携

５ コーチ４の任務

コーチ４は、ナショナルレベルのトレーニング拠点において選抜された者の育成強化にあたるとともに、ナショナルチームのメンバーに対しその能力を充分に発揮できるように個人的・組織的な指導にあたる。

具体的には、以下の任務を行う。

（１）クライミング技術の高度な専門的指導と指導法の研究

（２）クライマーの特性に応じたクライミング及び登攀能力向上のための指導

（３）クライミング技術の研究開発とスポーツ研究者との連携

（４）世界のクライミングの動向（規則・競技力・用具・競技・戦略等）の分析及びそれらに対応した

戦略法の研究

（５）中央競技団体における指導的役割

（６）インターナショナルイベントにおける競技者の指導

（７）スポーツポリティカルマネージャー

（８）長期一貫のトレーニングの企画立案と実践面における環境面のサポート

（９）中央競技団体の研修会・講習会での指導的役割

（10）コーチ1・コーチ２・コーチ３の指導と育成

（11）各指導者との連携

（指導者の特典）

第４条 指導者は、全国共通の資格を持ち、JSPO・JMSCA及びJMSCA定款第５条第１項に規定する正会員が代表する団体（都道府県山岳連盟（協会）を以下所属岳連（協会）という）が主催または共催する事業に、優先して参加することができる。

（指導者の義務）

第５条 指導者は、JMSCA及び所属岳連（協会）が定める講習会・研修会に参加しなければならない。

（指導者の失格）

第６条 　正当な理由なく所定の義務研修の講習会・研修会に出席しない指導者は、JSPO公認スポーツ

　　　　指導者登録規程及びJMSCA指導者登録及び更新登録規約により資格を喪失することがある。

２ 指導者としてふさわしくない行為があったと認められたときは、JSPOの処分規程に準じて処分する。

（指導者の資格）

第７条 　コーチ１は、年齢満２０歳以上のものでJSPOの共通科目（Ⅰ）及びJMSCAの専門科目を修了し合格したものでなければならない。

２　　コーチ２は、年齢満２２歳以上のもので、JSPOの共通科目（Ⅱ）及びJMSCAの専門科目を修了し合格したものでなければならない。

３　　コーチ３は、年齢満２５歳以上のものでコーチ２取得後３年以上の実績を有し、JSPOの共通科目（Ⅲ）及びJMSCAの専門科目を修了し合格したものでなければならない。

４　コーチ４は、コーチ３資挌取得後３年以上の指導実績を有し、JSPOの共通科目（Ⅳ）及びJMSCAの専門科目を修了し合格したものでなければならない。

（指導者の認定）

第８条 指導者の認定は、別に定める公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会スポーツクライミング指導者認定規約によらねばならない。

（指導者の登録）

第９条　 指導者は、所属岳連（協会）・JMSCAを経由してJSPOに登録することによってその資格を生ずる。

JMSCAは、別に定める公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会指導者の登録及び更新登録に関する規約により登録する。

２　 登録料は、別に定める公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会指導者の登録及び更新登録に関する規約による。

（指導者の更新登録）

第10 条 指導者は、４年ごとにその登録を更新しなければならない。

２ 　登録及び登録更新の時期は、毎年４月１日及び１０月１日とする。

３ 　登録料は、別に定める公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会指導者の登録及び更新登録に関する規約による。

（指導者資格の再登録）

第11 条 JSPO・JMSCAの公認指導者資格の有効期限切れに関する指導者の復活登録については、JSPO「公認スポーツ指導者資格再登録に関する基準（内規）」の条件を満たすことにより資格を復活登録することができる。

（指導者の認定証）

第12 条 指導者は、JSPO登録証を所持しなければならない。

（規程の改廃）

第13 条 本規程は、スポーツクライミング指導委員会の審議を経て常務理事会において改廃することができる。

付 則

１ 本規程は、平成２１年４月１日から施行する。

２ 本規程は、平成２２年４月１日改訂する。

３ 本規程は、平成２３年４月１日改訂する。

４ 本規程は、平成２４年４月１日改訂する。

５ 本規程は、平成２５年６月１日改訂する。

６ 本規程は、平成２８年４月１日改訂する。

７ 本規程は、令和元年１０月１０日改訂する。

８ 本規程は、令和３年８月１２日改訂する。

# スポーツクライミング指導者規程解説

スポーツ指導者の資格に関しては平成21年度より、アルパインクライミングとスポーツクライミングの２種類について別資格として、養成講習会・検定会を実施し、専門科目の修了認定を行ってきたが、日体協データベース上では区別されていなかった。このままの状態が続くと、日山協として独自のデータベースを構築しないと管理不能となり、また事務処理の負担が重く、混乱を生じる恐れがある。

　　　このため、平成２８年１月１日より下記の内容で両資格を分離することになった。

　　（１）山岳指導者

　　　　　公認山岳指導員、公認山岳上級指導員、公認山岳コーチ、公認山岳上級コーチ

　　（２）スポーツクライミング指導者

　　　　　公認スポーツクライミング指導員、公認スポーツクライミング上級指導員、公認スポーツクライミングコーチ

　　※山岳とスポーツクライミングを別資格として、両方の資格を持つ場合、マルチ資格保有者となる。

５．名称の変更

　（１）平成２９（２０１７）年４月１日

公益社団法人日本山岳協会　→　公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会

（略称：ＪＭＳＣＡ（ジムスカ））

　　（２）平成３０（２０１８）年４月１日

　　　　　公益財団法人日本体育協会　→　公益財団法人日本スポーツ協会

　　　　　（略称：ＪＳＰＯ（ジェイスポ））

　　（３）平成３１（２０１９）年４月１日

1. 山岳指導者資格の名称変更

・山岳指導員　→　山岳コーチ１

・山岳上級指導員　→　山岳コーチ２

・山岳コーチ　→　　　山岳コーチ３

・山岳上級コーチ　→　山岳コーチ４

（頭の公認は省略する）

1. スポーツクライミング指導者資格の名称変更

・スポーツクライミング指導員　→　　　スポーツクライミングコーチ１

・スポーツクライミング上級指導員　→　スポーツクライミングコーチ２

・スポーツクライミングコーチ　→　　　スポーツクライミングコーチ３

・スポーツクライミング上級コーチ　→　スポーツクライミングコーチ４

（頭の公認は省略する）

（指導者の定義）

1. スポーツクライミング指導者の名称に関しては、公益財団法人日本スポーツ協会の従来の公認山岳指導者の区分に入っていた。しかし国体山岳競技がスポーツクライミングに特化した事により、従来のアルパイン型の指導者ではカバーできない部分もあり、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会としては、これまでのアルパイン型指導者と並列したスポーツクライミングに特化した指導者養成が急務となり、スポーツクライミング専門の指導者と云う形で新たにスポーツクライミング指導者の資格を設定し認定することにした。

（指導者の任務）

第２条 スポーツクライミングコーチ１は、人工壁での指導経験のみを有する者でも資格を取得することが可能であるが、コーチ２に関しては、自然壁でのクライミング技術も有する必要があるとした。

またイベントとは大小に関わらずスポーツクライミング競技会や講習会、あるいはスポーツククライミングを理解してもらう為のフェスティバル的なものも含まれる。

コーチ３は単にスポーツクライミング指導だけでなく、競技力向上のためのあらゆる技術を習得し、それを指導する事が大きな目標である。

コーチ４は、コーチとしての任務を更に特化したもので、国体やジャパンカップ等の国内大会だけでなく、ワールドカップやアジア選手権等の国際大会まで、その指導範囲を広げたものであるが、同時にコーチ１・コーチ２・コーチ３の範たる存在として自覚を求められる。

# スポーツクライミング指導者認定規約

（総則）

第１条　公益財団法人日本スポーツ協会（以下JSPOという）・公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（以下JMSCAという）のスポーツクライミング指導者の認定と受検資格は、本規約による。

（公認コーチ１の認定と受検資格）

第２条　 公認スポーツクライミングコーチ１（以下コーチ1という）の認定。

２　コーチ１は、JSPO会長およびJMSCA会長が認定する。

３　JSPO担当の所定の共通科目（Ⅰ）およびJMSCA担当の所定のコーチ１専門科目を修了し合格したもの。

４　コーチ１を受検するものは、次の条件を満たしたものでなければならない。

（１）年齢は、満２０歳以上のもの（受検年度の４月１日現在）

（２）JSPOの所定の共通科目（Ⅰ）を修了、あるいは修了予定のもの

（３）スポーツクライミングの指導実績が２年以上あること

（４）指導的立場にあり、知徳円満にして指導者として活動の意志があるもの

（５）都道府県山岳連盟（協会）（以下都道府県山岳連盟（協会）を岳連（協会）という）に所属し、同岳連（協会）が認めるもの

（６）グレード５．１０以上をリードできると判断されたもの

（７）人工壁において、初心者の指導実績を有し指導できると判断されたもの

（公認コーチ２の認定と受検資格）

第３条　 公認スポーツクライミングコーチ２（以下コーチ２という）の認定。

２　コーチ２は、JSPO会長およびJMSCA会長が認定する。

３　 JSPO担当の所定の共通科目（Ⅱ）およびJMSCA担当の所定のコーチ２専門科目を修了し合格したもの。

４　コーチ２を受検するものは、次の条件を満たしたものでなければならない。

（１）年齢は、満２２歳以上のもの（受検年度の４月１日現在）

（２）JSPOの所定の共通科目（Ⅱ）を修了、あるいは修了予定のもの

（３）スポーツクライミングの指導実績が３年以上あること

（４）指導的立場にあり、知徳円満にして指導者として活動の意志があるもの

（５）岳連（協会）に所属し、同岳連（協会）が認めるもの

（６）指導能力が全国レベルに達したものと岳連（協会）会長が認めたもの

（７）グレード５．１１以上をリードできると判断されたもの

（８）自然壁においても実績を有し、コーチ1を指導できると判断されたもの

（公認コーチ３の認定と受検資格）

第４条　 公認スポーツクライミングコーチ３（以下コーチ３という）の認定

２　コーチ３は、JSPO会長およびJMSCA会長が認定する。

３　JSPO担当の所定の共通科目（Ⅲ）およびJMSCA担当の所定のコーチ専門科目を修了し合格したもの。

４　コーチ３を受検するものは、次の条件を満たしたものでなければならない。

（１）年齢は、満２５歳以上のもの（受検年度の４月１日現在）

（２）コーチ２の資格取得後３年以上の指導実績を有するもの

（３）JSPOの所定の共通科目（Ⅲ）を修了、あるいは修了予定のもの

（４）岳連（協会）に所属し、同岳連（協会）が推薦し、JMSCAが認めたもの

（５）グレード５．１２以上をリードできると判断されたもの。

(公認コーチ４の認定と受検資格）

第５条公認スポーツクライミングコーチ4（以下コーチ４という）の認定

２　コーチ４は、JSPO会長およびJMSCA会長が認定する。

３　 JSPO担当の所定の共通科目（Ⅳ）およびJMSCA担当の所定のコーチ４専門科目を修了し合格したもの。

４　コーチ４を受検するものは、次の条件を満たしたものでなければならない。

（１）年齢は、満３０歳以上のもの（受検年度の４月１日現在）

（２）コーチ３資格取得後３年以上の指導実績を有しているもの

（３）JSPOの所定の共通科目（Ⅳ）を修了、あるいは修了予定のもの

（４）岳連（協会）に所属し、同連盟（協会）が認めるもの

（５）国際性を有し、国際的なレベルに達したものとJMSCAが認めたもの

（６）グレード５．１３をリードおよび初段のボルダリングができると判断されたもの。

（講習免除科目）

第６条　 JMSCAが認定した以下の資格を有しているものは、講習の取得単位の一部を免除する。

２　 JMSCA公認クライミング競技審判員の免除項目

コーチ１：基礎理論⑧及び実技・指導実習④、

コーチ２：基礎理論⑧及び実技・指導実習⑥

３　 公認クライミング競技ルートセッターの免除項目

コーチ１：基礎理論⑥～⑧及び実技･指導実習③、④、

コーチ２：基礎理論⑥～⑧及び実技・指導実習④～⑥

４　 指導者受検申請時に、JMSCAが認める資格と認定番号を記入しなければならない。

（コーチ１及びコーチ２の検定会と受検の申請）

第７条　 検定会は、JMSCA会長の委嘱を受けて岳連（協会）が主催し、その実施要領は、岳連（協会）が定める。

２　 岳連（協会）会長は、実施年度はじめに所定様式をもってJMSCA会長に申請し、その委嘱をうけなければならない。

３　 検定会は、JMSCAから委嘱された主任検定員１名とコーチ２以上１名の合計２名以上によって構成しなければならない。

４　 受検希望者は、JMSCA所定の受検申請書及びクライミング履歴書に必要事項を記入の上、当該岳連（協会）が定めた受検料を添えて、所属団体代表者の推薦を得て所属岳連（協会）会長あてに申請する。

５　コーチ１については、スポーツクライミングコーチ１検定基準（以下「コーチ１検定基準」という）、またコーチ２については、スポーツクライミングコーチ２検定基準（以下「コーチ２検定基準」という）により行う。理論・実技（クライミングの技能）及び指導実習（実技の指導能力）を実施し、指導者として一定以上の能力を有しているものとする。

６　検定責任者は、検定会終了後実施の結果を所属岳連（協会）会長に報告しなければならない。

７　所属岳連（協会）会長は、所属岳連（協会）理事会（またはこれに変わる機関）において受検者を審査し、JMSCA所定の「公認指導者認定申請書」に別紙・別添書類1.2.3.4を添えてJMSCAに提出する。

８　JMSCAは、前項によって提出された書類を指導委員会で審査し、常務理事会で認定する。

９　 審査結果については、所属岳連（協会）会長あてに通知し、専門科目修了証を交付する。

（コーチ３及びコーチ４の検定会と受検の申請）

第８条　 検定会は、JMSCA指導委員会が主催し、その実施要領は別に定める。

２　 受検希望者は、所属岳連（協会）の推薦を得て、所定の受検申請書及びクライミング履歴書に必要事項を記入の上、当該岳連（協会）を通じてJMSCA指導委員会に所定の受検料を添えて申請する。

３　 検定会は、JMSCAから委嘱された主任検定員１名とコーチ２　１名の合計２名以上によって構成しなければならない。

４　 検定会は、「スポーツクライミングコーチ３および４検定基準」及び別に定める専門科目により行ない、理論・実技（スポーツクライミングのあらゆる技能をマスターしていること）及び指導実習（実技及びマナーの指導能力）について実施し、コーチとして一定以上の能力を有しているものとする。

（規約の改廃）

第９条 本規約は、スポーツクライミング指導委員会の審議を経て常務理事会において改廃することができる。

（付則）

１　 本規約は、平成１８年４月１日から実施する。

２　-本規約は、平成２１年４月１日改訂する。

３　 本規約は、平成２２年４月１日改訂する。

４　 本規約は、平成２３年４月１日改訂する。

５　 本規約は、平成２４年４月１日改訂する。

６　 本規約は、平成２５年６月１日改訂する。

７　 本規程は、平成２８年４月１日改訂する。

８　 本規程は、令和元年１０月１０日改訂する。

　９　 本規程は、令和３年８月１２日改訂する。

# 指導者登録及び更新登録に関する規約

（指導者の登録）

第１条　 公認スポーツクライミングコーチ1・公認スポーツクライミングコーチ２・公認スポーツクライミングコーチ３・公認スポーツクライミングコーチ４（以下それぞれコーチ１・コーチ２・コーチ３・コーチ４という）の登録は、次のように行う。

２ 指導者の登録は、毎年４月１日・１０月１日とする。

３ 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会スポーツクライミング指導者認定規約（以下指導者認定規約という）第２、３、４、５条により、公益財団法人日本スポーツ協会（以下JSPOという）会長及び公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（以下JMSCAという）会長より認定されたものは、JSPOより指示された期日迄に登録申請書または、内容に変更がある場合は登録確認書に登録料を添えてJSPOに納入しなければならない。また所属都道府県山岳連盟（協会）（以下所属岳連（協会）という）の登録は、所定の登録料を添えて所属岳連（協会）へ納入しなければならない。

（指導者の更新登録）

第２条　コーチ１、コーチ２、コーチ３、コーチ４の更新登録は、次のように行う。

２　指導者の登録の有効期限は４年間とし、４年毎に更新登録をしなければならない。

３　更新登録をするものは、JSPOから「更新登録通知書」に指示された期日迄に登録申請書に更新登録料を添えてJSPOへ納入しなければならない。振込の確認後、JSPOより本人あてに登録証が送付される。また所属岳連（協会）の登録料、所属岳連（協会）へ納入しなければならない。

４ 各岳連（協会）は、必要に応じて更新登録者のための講習会･研修会を実施しなければならない。

（更新登録基準）

第３条 更新登録の基準とは、次の項のいずれかに該当し、継続して活動しているもので有効期限が切れる６ヶ月前迄にJMSCAが認定する講習会・研修会に参加しなければならない。有効期限内に更新登録を行わない場合は資格が停止される。研修会の場合には参加したものが更新研修実績として認められ、講習会の場合には講師として参加したものが更新研修実績として認められる。

２ 研修会関係

　①JMSCAが主催する指導者講習会・研修会

指導者講習会・研修会とは、以下のものをいう。

「全国ブロック別研修会、指導者研修、競技運営研修、アンチドーピング研修会、

ルートセッター研修会、クライミング審判員研修会、主任検定員研修会等」

②JMSCAが認めた各岳連（協会）から申請された更新研修のための講習会・研修会（山岳関連も可）

スポーツクライミング

クライミングの基礎・技術・安全、法律、医学、確保、グレード、ルート、競技

（更新登録のための講習会・研修会開催申請）

第４条　コーチ１、コーチ２、コーチ３、コーチ４の更新登録のための講習会・研修会は、必要に応じてJMSCA会長の委嘱を受けて所属岳連（協会）が開催しなければならない。その実施要領は所属岳連（協会）が定める。

２　所属岳連（協会）会長は、更新登録のための講習会・研修会を開催する場合は、１ヶ月前までに公認スポーツ指導者登録管理システムへ入力申請し、JSPO及びJMSCAのシステム承認を受けなければならない。

また、参加した指導者の実績を入力しなければならない。

３　JMSCAは、JMSCA主催で更新登録のための義務研修を行う計画が有る場合はその旨を所属岳連（協会）に通知しなければならない。報告期限は以下の通りとする。

上期： ４／１～９／３０ 実施分 １０／３０まで

下期：１０／１～３／３１ 実施分 ４／３０まで

（指導者の登録料）

第５条　指導者の基本登録料・資格別登録料は、以下により行う。

２　 基本登録料は、４年間で１０,０００円、資格別登録料も４年間で２,０００円を合算してJSPOへ納入する。ただし資格別登録料２,０００円はJMSCAへ還付される。

３　 初期登録手数料は、３,０００円、但し新規登録時のみ納入する。

４　 所属岳連（協会）登録料は、４年間で１,０００円から４,０００円を納入する。

　５　山岳とスポーツクライミングは夫々別資格（マルチ資格）となり、資格別登録料は夫々納入する。

（規約の改廃）

第６条 本規約は、スポーツクライミング指導委員会の審議を経て常務理事会において改廃することができる。

（付則）

１　 本規約は、平成１８年４月１日から実施する。

２　 本規約は、平成２１年４月１日改訂する。

３　 本規約は、平成２２年４月１日改訂する。

４　 本規約は、平成２３年４月１日改訂する。

５　 本規約は、平成２４年４月１日改訂する。

６　 本規約は、平成２５年６月１日改訂する。

7　　本規約は、平成２８年4月１日改訂する。

８　 本規程は、令和元年１０月１０日改訂する。

９　 本規程は、令和３年８月１２日改訂する。

# 指導者登録及び更新登録に関する規約解説

第１条（指導者の新規登録）

３　登録料の内訳は、下表の通りである。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 登　　録　　料 | | | 合　計 | 備　考 |
| 基本登録料 | 資格別登録料 | 岳連（協会）  登録料 |
| コーチ１ | \*1  13,000 | \*2  2,000 | \*3  1,000＋α | 16,000＋α |  |
| コーチ２ |
| コーチ３ |
| コーチ４ |

* １　基本登録料（13,000円）=初期登録手数料(3,000円)+基本登録料(10,000円)

　　　　初期登録手数料は初めて公認スポーツ指導者資格を登録する際に必要となる

　　　　すでに公認スポーツ指導者資格を有していて、新たに資格を追加登録する際は必要あり

ません。但し、山岳とスポーツクライミングは別個に必要となる

* ２　基本登録料と資格別登録料(2,000円)は一括してJSPOに納入する
* ３　各岳連（協会）で指導者協議会等独自の運営費が必要な場合は、＋αを各岳連（協会）

決めてもよい

指導者の登録ルーティンを図1に示す

　　　　　　　　③

金　融　機　関

指

導

者

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　④

日本スポーツ協会

JSPO

　②

⑤

　　　　　　　　　　⑥

日本山岳・スポーツクライミング協会

JMSCA

都道府県山岳連盟（協会）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　図１　指導者の登録ルーティン

1. マイページより新規登録するまたは、都道府県体協が新規登録をする。
2. JSPOより新規登録者に登録申請書及び振込依頼書送付
3. 基本登録料+初期登録手数料を振り込む
4. 振り込みを確認
5. JSPOより『登録証』を送付
6. JSPOよりJMSCAへ資格別登録料の還付

第２条（指導者の更新登録）

３　更新登録料の内訳は、下表の通りである。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 更　新　登　　録　　料 | | | 合　計 | 備　考 |
| 基本登録料 | 資格別登録料 | 岳連（協会）  登録料 |
| コーチ１ | \*1  10,000 | \*1  2,000 | \*2  1,000＋α | 13,000＋α |  |
| コーチ２ |
| コーチ３ |
| コーチ４ |

* １　基本登録料・資格別登録料は一括してJSPOに納入する
* ２　各岳連（協会）で指導者協議会等独自の運営費が必要な場合は、＋αを各岳連（協会）

　　で決めてもよい。

指導者のJSPOへの登録は個人単位であるが、中央競技団体（JMSCA）で指導研修実績など登録管理を行うので還付された資格別登録料が使われる。

これにより各岳連（協会）とJMSCAは、コーチ１、コーチ２、コーチ３ならびにコーチ４の指導実績をデータベースに登録する。

指導者の更新登録ルーティンを図２に示す

金融機関

日本スポーツ協会

JSPO

指

導

者

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　③

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　④

日本山岳・スポーツクライミング協会

JMSCA

都道府県山岳連盟（協会）

　　　　　　　　　　　　　　　⑤

図２　指導者の更新登録ルーティン

1. JSPOより更新登録者に基本登録料・資格別登録料振り込み依頼書送付
2. 基本登録料・資格別登録料振り込み（マルチ有資格者は夫々を納付）
3. 振り込み確認
4. JSPOよりJMSCAへ資格別登録料の還付

　　 ⑤ 指導者より岳連（協会）へ登録料納付

指導者養成講習会　実施から認定までのフロー　　（例　コーチ１）

15

16

JSPO(NHK学園)

都道府県体育(スポーツ)協会

24

23

22

21

20

19

18

17

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

都道府県

山岳連盟（協会）

ＪＭＳＣＡ

山岳会

受　　講　　者

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| No. | 項　目 | 流れ | | 時期  ※3 |
| 送 | 受 |
| 1 | 養成講習会実施予定アンケート | JMSCA | 岳連(協会) | 11月 |
| 2 | 同上 | 岳連(協会) | 山岳会 | 12月～ |
| 3 | 同上 | 山岳会 | 受講者 | 12月～ |
| 4 | 同上 | 体協 | 岳連(協会) | 1月 |
| 5 | アンケート回答（個人別） | 受講者 | 岳連(協会) | 1月～ |
| 6 | 同上（人数のみ） | 岳連(協会) | JMSCA | 2月 |
| 7 | 同上（人数のみ） | 岳連(協会) | 体協 | 2月 |
| 8 | 共通１書類送付（受講の手引き等） | 体協 | 岳連(協会) | 4月 |
| 9 | 実施要項告知・申込開始 | 岳連(協会) | 受講者 | 4月～ |
| 10 | 申込用紙（岳連(協会)用）送付 | 受講者 | 岳連(協会) | 5月 |
| 11 | 養成講習会実施申請書・委嘱書送付 | 岳連(協会) | JMSCA | 6月 |
| 12 | 養成講習会実施委嘱書送付 | JSPO | 岳連(協会) | 6月 |
| 13 | 開催申請書類、申込用紙（体協用）送付 | 岳連(協会) | 体協 | 6月※4 |
| 14 | 受講決定通知 | 岳連(協会) | 受講者 | 6月 |
| 15 | JSPO指導者マイページ登録 | 受講者 | JSPO | 6月 |
| 16 | 岳連(協会)へ受講料を振り込み | 受講者 | 岳連(協会) | 6月 |
| 17 | 受講者通知 | 体協 | NHK学園 | 7月 |
| 18 | 共通科目テキスト・振り込み書類送付 | NHK学園 | 受講者 | 8月 |
| 19 | 共通科目１受講料振り込み | 受講者 | NHK学園 | 8月 |
| 20 | 認定申請書送付 | 岳連(協会) | JMSCA | 3月 |
| 21 | 認定通知 | JMSCA | 岳連(協会) | 4月 |
| 22 | 専門科目合否報告 | 岳連(協会) | 体協 |  |
| 23 | 専門科目合否通知 | 体協 | 受講者 |  |
| 24 | 専門科目合否通知 | 岳連(協会) | 受講者 |  |
| 25 | 指導員登録申請書類 | 体協 | 受講者 |  |

※1体協：都道府県体育(スポーツ)協会 ※2岳連(協会)：都道府県山岳連盟(協会)　※3　例（実施月は目安です。）※4　委託事業・独自事業とも開始の１ヶ月前までに提出

　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和　　年　　月　　日

2021

公益社団法人　日本山岳･スポーツクライミング協会

会長　丸　誠一郎　殿　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　○○県山岳連盟（協会）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　会　長　　　　　　　　　　印

**『令和　　 』年度　スポーツ指導者養成講習会及び検定会実施申請書**

　　　　　　　上記、養成講習会及び検定会を次の要領にて実施いたしますので、指導者認定規約第７条第２項に

もとづいて当山岳連盟（協会）に委嘱されるよう申請いたします。

実　　施　　要　　領

|  |  |
| --- | --- |
| １．実　施　資　格 | □スポーツクライミングコーチ１　□スポーツクライミングコーチ２ |
| ２．実　施　期　間 | 令和　　　年　　月　　日　　～　　令和　　年　　月　　日 |
| ３．実　施　場　所 |  |
|  |
| ４．実　施　内　容 | 添付： |
| ５．検　定　員  　　　講　　　師 | 主任検定員： |
| 検　定　員： |
| 講　　　師： |
| ６．備　　　考 |  |

　　　　　注：　１．上記は申請する山岳連盟（協会）にて記入のこと。

　　　　　　　　２．検定員の後に資格を記入のこと（公認コーチ資格）

３．講師の後に資格を記入のこと（例：コーチ１、コーチ２、医師、弁護士etc．）

令和　　年　　月　　日

　　○○県山岳連盟（協会）

　会　長　　　　　　　　殿　　　　　　公益社団法人　日本山岳･スポーツクライミング協会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　会　長　　丸　誠一郎　　印

**『令和　　』年度　スポーツ指導者養成講習会及び検定会実施委嘱書**

　令和　　　年　　月　　日　貴山岳連盟（協会）より申請されました上記、養成講習会及び検定会の実施

　　　　を指導者認定規約第７条・第２項にもとづいて貴山岳連盟（協会）に委嘱いたします。

実　　施　　要　　領

|  |  |
| --- | --- |
| １．実　施　資　格 | □スポーツクライミングコーチ１　□スポーツクライミングコーチ２ |
| ２．実　施　期　間 | 令和　　年　　月　　日　　～　　令和　　年　　月　　日 |
| ３．実　施　場　所 |  |
|  |
| ４．実　施　内　容 |  |
| ５．検　定　員  　　　講　　　師 | 主任検定員： |
| 検　定　員： |
| 講　　　師： |
| ６．備　　　考 |  |

　　　　　注：　１．上記は申請する山岳連盟（協会）にて記入のこと。

　　　　　　　　２．検定員の後に資格を記入のこと（公認コーチ資格）

３．講師の後に資格を記入のこと（例：コーチ１、コーチ２、医師、弁護士etc．）

2021

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和　　年　　月　　日

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会

会長　　　　　　　　　 殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　山岳連盟（協会）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　会　長　　　　　　　　　　　　　印

**『令和　　』年度公認コーチ１認定申請書**

　　　　　　令和　　　年　　月　　日付により委嘱されたコーチ１養成講習会及び検定会を別紙により実施いたしました。

　　　　　　ついては下記の関係書類を添えて認定を申請いたします。

　　　　別　　紙　　　　　指導者養成講習会及び検定会実施結果報告書　　　　　　　　　１　部

　　　　別添書類　　　　　１．　認定申請者一覧表　　　　　　　　　　　　　　　　　　１　部

　　　　　　　　　　　　　２．　クライミング履歴書　　　　　　　　　　　　　　　　　各　通

　　　　　　　　　　　　　３．　検定会得点表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　１　部

　　　　　　　　　　　　　４．　学科問題（模範解答付）　　　　　　　　　　　　　　　１　部

**『令和　　』年度スポーツクライミングコーチ１養成講習会施結果報告書**

2021

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　岳連（協会）名

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　主任検定員名　　　　　　　　　　　　　印

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 養  成  講  習  会  及  び  検  定  会  の  内  容 | クライミング技術  指導法 | 養成講習検定月日 | | 令和　　年　　月　　日　　～　　令和　　年　　月　　日 |
| 養成講習検定場所 | |  |
| 検　定　員(資格) | |  |
|  |
| 講　師 | |  |
|  |
| 実施内容 | 検　定 |  |
| 講　習 |  |
| クライミング技術  　実技 | 養成講習検定月日 | | 令和　　年　　月　　日　　～　　令和　　年　　月　　日 |
| 養成講習検定場所 | |  |
| 検　定　員(資格) | |  |
|  |
| 講　師 | |  |
|  |
| 実施内容 | 検定 |  |
| 講習 |  |
| 基  礎  理  論  及  び  学  科 | 養成講習検定月日 | | 令和　　年　　月　　日　　～　　令和　　年　　月　　日 |
| 養成講習検定場所 | |  |
| 検　定　員(資格) | |  |
|  |
| 講　師 | |  |
|  |
| 実施内容 | 検定 |  |
| 講習 |  |
| 備　　　　　考 | | | |  |

養成講習及び検定内容を詳細に記入のこと。

別添３

2021

スポーツクライミングコーチ１養成講習会認定申請者　クライミング履歴書　　　　　記入日　西暦○○○○年　○月　○日

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 私は下記のとおり受講条件の5.10以上のリード、指導実績2年以上および20歳以上を満たしています。　氏名　　　　　　　　　　　　　　　印  【クライミング履歴】※リードは、5.10b以上、ボルダリングは、5級以上を3ルート以上記入のこと | | | | | |
| 年 月 | ルート名及び岩場名 | 形状・内容　\*1 | グレード | スタイル　\*2 | 備考 |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |

* \*1－F:フェース、S:スラブ、C:クラック、B：ボルダリング。　\*2－OS:オンサイト、RP:レッドポイント。
* ※5年以内の履歴を記入のこと。形状・内容は片寄らず、多様なクライミング技術が判る様な履歴。ルートは認知度の高いものが望ましい。
* 【競技履歴】　※必須ではない

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　月 | 主催 | 大会名 | カテゴリー | 成績 | 備考 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

* 【コーチ・監督・指導履歴】　※人工壁、クライミングジムでの指導実績も記入可能

|  |  |
| --- | --- |
| 年 | 自由表記　例）　○○国体成年男子監督　、○○講習会講師　etc |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 別添３ | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 2021 |
|  |  |  | **スポーツクライミングコーチ１検定得点表** | | | | | | |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 岳連（協会）名 | |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 主任検定員名 | |  |  | 印 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| No | 氏　　名 | （２)実技・指導実習 | | | | | | | | | | | | （１） 基礎理論 | 合計 （２） ＋ （１） |
| ①用具 | | ②クライミング | | ③確保 | | ④セッティング | | ⑤競技 | | 小　　計 | |
| (50) | | (70) | | (50) | | (15) | | (15) | | (200) | | (100) |
| 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 学科 |
| (30) | (20) | (35) | (35) | (25) | (25) | (5) | (10) | (5) | (10) | (100) | (100) | (100) | (300) |
| 1 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 2 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 3 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 4 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 5 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 6 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 7 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 8 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 9 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |
| 10 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 |

別添４

2021

　　　　スポーツクライミングコーチ２講習会認定申請者　クライミング履歴書　　　　記入日　西暦○○○○年　○月　○日

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 私は、下記のとおり受講条件の5.11以上のリード、指導実績3年以上、  リード・懸垂下降を含むマルチピッチ経験および25歳以上を満たしています。　　　　　　　　　　　　氏名　　　　　　　　　　　　　　印  【クライミング履歴】※リード(必須)5.11a以上(3ルート以上)。ボルダリングは4級以上。マルチピッチ(必須)はグレードを問わず。 | | | | | |
| 年 月 | ルート名及び岩場名 | 形状・内容　\*1 | グレード | スタイル　\*2 | 備考 |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |

\*1－F:フェース、S:スラブ、C:クラック、B：ボルダリング、Ｍ：マルチピッチ。　\*2－OS:オンサイト、RP:レッドポイント。

※5年以内の履歴を記入のこと。形状・内容は片寄らず、多様なクライミング技術が判る様な履歴。ルートは認知度の高いものが望ましい。

【競技履歴】　※必須ではない

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　月 | 主催 | 大会名 | カテゴリー | 成績 | 備考 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

【コーチ・監督・指導履歴】　※人工壁、クライミングジムでの指導実績も記入可能

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年 | | 自由表記　例）　○○国体成年男子監督　、○○講習会講師　etc | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | |  | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | |  | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | |  | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 別添４ | | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 2021 | |
|  | |  | |  | **スポーツクライミングコーチ２検定得点表** | | | | | | |  |  |  |  |  |  |  |  | |
|  | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 岳連（協会）名 | |  |  |  | |
|  | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 主任検定員名 | |  |  | 印 | |
|  | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | |
| No | | 氏　　名 | | （2)実技・指導実績 | | | | | | | | | | | | | | （１） 基礎理論 | 合計 （２） ＋ （１） | |
| ①用具 | | ②クライミング | | ③確保 | | ④セッティング | | ⑤競技 | | ⑥自然壁の技術 | | 小　　計 | |
| (40) | | (55) | | (45) | | (15) | | (15) | | (30) | | (200) | | (100) |
| 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 学科 |
| (20) | (20) | (30) | (25) | (25) | (20) | (5) | (10) | (5) | (10) | (15) | (15) | (100) | (100) | (100) | (300) | |
| 1 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |
| 2 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |
| 3 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |
| 4 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |
| 5 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |
| 6 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |
| 7 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |
| 8 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |
| 9 | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 0 |  | 0 | |

# 指導者養成講習会及び検定会実施手続き要領

**１．養成講習会について**

　　都道府県山岳連盟（協会）で指導者養成講習会及び検定会を実施できるものは、コーチ１及コーチ２までであって、都道府県体育協会と共催する。養成講習会のうち共通科目については都道府県体育協会または日本スポーツ協会が実施し、専門科目についてはJMSCAまたは岳連（協会）が実施する。尚養成講習会には技量等の判定の為に検定試験を実施する。

**２．養成講習会及び検定会実施希望有無の確認**

　　　コーチ１及びコーチ２の養成講習会の実施を希望する場合は、実施希望前年12月末までに、JSPO・都道府県体協及びJMSCAの「指導者養成講習会実施希望調査について（依頼）」へ委託開催か独自開催または未実施を区分して回答しなければならない。

※アンケートは実際には希望ではなく、実施するか否かの調査なので、回答する時点で既に受講者が集まっていることが望ましい。

**３．養成講習会及び検定会開催申請手続きについて**

　　JMSCA指導者認定規約に基づく指導者養成講習会及び検定会を実施する場合は、実施年度初めに下記に示すJMSCA所定の様式でJMSCA指導委員会宛へ提出しなければならない。

・『　　　』年度コーチ１並びにコーチ２養成講習会及び検定会実施申請書

・『　　　』年度コーチ１並びにコーチ２養成講習会及び検定会実施委嘱書

JMSCAは提出された実施申請書に異議がなければ、実施委嘱書にJMSCA会長名で捺印の上、都道府県山岳連盟（協会）に送付したことをもって実施申請を受理したものとする。

**４．指導者養成講習会及び検定会実施結果報告及び認定申請手続きについて**

　　　実施後は速やかにJMSCAへ下記に示す所定の申請書を提出しなければならない。

　　　・『　　　』年度コーチ１認定申請書

　　　・『　　　』年度コーチ２認定申請書

　　　上記申請書には養成講習会及び検定会実施結果報告書、認定申請者一覧表、認定申請者山歴書（履歴書）、検定会得点表、学科問題（模範解答付き）を各一部添えなければならない。

養成講習会開催にあたって、岳連（協会）からのJMSCAより検定員を派遣する場合がある。

* JMSCAより検定員を派遣する費用については、JMSCA規程の必要経費（宿泊費、交通費など）＋謝金を当該山岳連盟（協会）の負担とする。

**５．指導者養成講習会及び検定会実施報告の受理について**

（１）　コーチ１及びコーチ２の場合

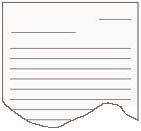
　　　JMSCAは都道府県山岳連盟（協会）より提出された専門科目の認定申請書、養成講習会および検定会実施結果報告書、認定申請者一覧表、認定申請者山歴書（履歴書）、検定会得点表、学科問題（解答付き）に異議がなければ受理した旨、都道府県山岳連盟（協会）に通知する。

　 　都道府県山岳連盟（協会）は専門科目の受講、未受講及び検定の合否の結果を都道府県体育協会へ報告し事業が完了するが、共通科目と併せて日本スポーツ協会より直接受講者へ後日合否結果を知らされる。

日本スポーツ協会の通知には時間がかかる為、都道府県体育協会より事前に結果を通知してもらう様にしておく事が望ましい。合格の場合受講者より提出される日本スポーツ協会登録申請書の内、加盟団体保管を抜き、日本スポーツ協会提出用を期限までに都道府県体育協会へ提出する。日本山岳協会へは加盟団体保管用の写しを送付する。

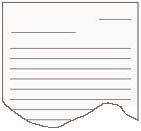
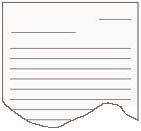
**図１　指導者養成講習会及び検定会実施申請の手続き**

手続き１　各岳連（協会）より⇒JMSCAへ提出



　　　　　　　　　　手続き２　JMSCAより⇒各岳連（協会）へ送付

『　　』年度養成講習会及び検定会**実施委嘱書**



『　　』年度養成講習会及び

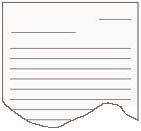
検定会**実施申請書**

『　　』年度養成講習会及び

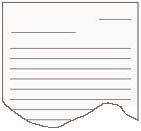
検定会**実施委嘱書**

**図２　コーチ１及びコーチ２認定申請の手続き**

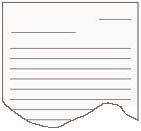
各岳連（協会）より⇒JMSCAへ提出



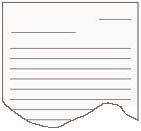
学科問題（模範解答付）、論文課題



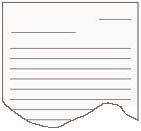
検定会得点表



認定申請者山歴書

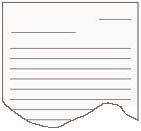


認定申請者一覧表



実施結果報告書

認定申請書



# 公認主任検定員認定規約

（総則）

第１条 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（以下JMSCAという）公認主任検定員の受講・検定・認定及び登録更新は本規約による。

（認定と受講資格）

第２条 JMSCA公認主任検定員（以下主任検定員という）の認定

（１）主任検定員は、JMSCA会長が認定する。

（２）JMSCA所定のスポーツクライミング主任検定員養成講習会を受講し、専門科目を合格したもの。

　（３）名称はスポーツクライミング主任検定員と呼称する。

２ 受講資格

（１）スポーツクライミング主任検定員はスポーツクライミングコーチ２以上の資格を有し、実技・指導法及び検定ができるもの。

（２）現在各都道府県山岳連盟（協会）（以下各岳連（協会）という）に於いて、コーチ１及びコーチ２養成講習会講師又は検定員または技術講習会等で指導の実績を有しているもの。

（３）各岳連（協会）に所属し、会長の推薦を受けたもの。

（検定会と受講の申請）

第３条 検定会は、JMSCA会長の委嘱をうけてスポーツクライミング指導委員会が主催し、その実施要項はスポーツクライミング指導委員会が定める。

２　実施要項は、実施年度はじめに各岳連（協会）会長に通知する。

３　検定会は、JMSCAから委嘱をうけた主任検定員１名を含む検定員２名以上によって構成しなければならない。

４ 受講希望者は、JMSCA所定の申請書に必要事項を記入の上、所属岳連（協会）会長の推薦を経てJMSCA会長に申請する。

５ 養成講習会は、実施要項にもとづき指導者制度・主任検定員制度の規約・JSPO及び都道府県スポーツ協会の諸手続きに関する講習、コーチ１およびコーチ２の実技実習・指導法等の講習を受けなければならない。

６ 受講者は事前に論文を提出し、また別途定める受講料を納入しなればならない。

７ 検定会は、「コーチ１検定基準」「コーチ２検定基準」の実技実習・指導法及び論文審査により実施する。

（認定基準）

第４条 養成講習会時に実技の合格基準のデモストレーションを行えること。

２ 指導法は、各項目の手順・分解説明・解説を正しく伝達し、理解できる表現をしている。

３ 合格ラインの技術及び指導法は、各自独特のものではなく統一基準によるレベルである。

４ 必ずしも実績が素晴らしいだけでなく、如何に初心者またはその対象者を導けるかが指導者としての判定基準となる。

（特例）

第５条　JMSCAの主催する主任検定員養成講習会、コーチ２及びコーチ養成講習会で実技講師を務めた者については、スポーツクライミング指導委員会で審議し、主任検定員の資格を授与することが出来る。

（審査及び認定）

第６条 検定会の評価結果については、スポーツクライミング指導委員会で審議し、JMSCA常務理事会の議を経て決定する。

２ 受講者には合否結果を通知し、合格者には認定証を交付する。

（有効期限及び資格更新）

第６条 有効期間は、資格取得後４年間とする。

２ 資格の更新は、期限内に主任検定員養成講習会もしくは主任検定員更新講習会を修了して資格を継続する。

３ 更新登録の講習会に当たっては、論文審査は行わない。

（規約の改廃）

第７条 本規約は、スポーツクライミング指導委員会の審議を経て常務理事会において改廃することができる。

（付則）

１　 本制度は、平成１２年４月１日より実施する。

２　 本規約は、平成１８年４月1 日より規約を制定する。

３　 本規約は、平成２１年４月1 日改訂する。

４　 本規約は、平成２２年４月1 日改訂する。

５　 本規約は、平成２３年４月１日改訂する。

６　 本規約は、平成２４年４月１日改訂する。

７　 本規約は、平成２５年６月１日改訂する。

　８　　本規約は、平成２８年４月１日改訂する。

９　 本規程は、令和元年１０月１０日改訂する。

10　 本規程は、令和３年８月１２日改訂する

# 主任検定員制度解説

スポーツクライミングの主任検定員制度は、スポーツクライミングの指導員および上級指導員を増やすには山岳指導者同様に、主任検定員制度を作り、都道府県山岳連盟（協会）で、養成講習会を開催することが必要とのことで、平成２４（２０１４）年９月に、神奈川県山岳スポーツセンターで、競技別講師養成講習会としてJSPOの助成講習会の一環として開催して、平成２４（２０１４）年度に制度として始まった。

令和２年（２０２０）年４月より指導委員会がスポーツクライミング指導委員会と山岳に分かれることにより、スポーツクライミング専用の本規程・規約集を作成する。

※上記は指導者資格の名称が変更する前の解説なので、旧資格名称のままとした。

１． 主旨

検定のレベルを統一するために、以下のような目的で検定を実施する。

（１）　 検定の審査基準の統一を図る。

（２） 検定の技術水準の一致を図る。

（３）「コーチ１検定基準」「コーチ２検定基準」書の解釈・判断の統一をする。

２． 任期

（１）主任検定員養成講習会を修了し検定に合格して、資格取得後４ヶ年を有効期限とする。

（２）資格の更新は、期限内に主任検定員養成講習会もしくは主任検定員更新講習会を修了して資格を継続する。

（３）任期を4 年とした理由

①技術は日々進歩しており、その時代に対応できる技術指導を行える。

②コーチ１・コーチ２を審査できる検定員であるために期限を設定する。

③常にコーチ１・コーチ２をめざす者への模範を示せる検定員であり、技術　指導の研鑚と研修会（講習会）に参加し、技術及び指導方法の確認をする必要がある。

３．講習会カリキュラム

講習会参加者は、コーチ１・コーチ２・コーチ３・コーチ４の資格者であり又各山岳連盟（協会）にあっては指導実績、経験が豊富な高レベルな指導者であるので、一般的・基本的な説明は不要であり、直接主題とする講習（研修）が行え、確認事項のみにて済む可能性も大いにあり、下記のカリキュラム単位にて充分な理解・浸透を図る。

（１） 実技及び指導法

①スポーツクライミング主任検定員は、「コーチ１検定基準」「コーチ２検定基準」の各項目に基づいて実施する。

②検定項目（実技・指導法）の実施確認

技術（技能）、指導法であるので「コーチ１検定基準」「コーチ２検定基準」の項目を確認出来る。

＊デモストレーションの実施方法を指導する際の効果、方法を実習する。

＊指導方法の技術的の解説、説明のあり方を統一する。

（２）理論（論文）

①課題「自分の経験に基づいて検定評価について述べよ」について、文章構成・表現・内容等を審査する。

②課題「所属岳連（協会）に於けるコーチ1の養成について述べよ」について、文章構成・表現・内容等を審査する。

４．養成講習会内容

（１） 各「検定基準」に添って行う。

①実技については、各項目における合格・不合格（保留）のボーダーライン設定の示し方・デモストレーションの実施

＊実技の模範となる演技の行い方

＊実技の解説・手順分解しての説明の行い方（正しい説明）

②指導法については、各項目における合格・不合格（保留）のボーダーラインの決め方

＊ 技術指導の解説・手順分解の目安

＊新しい技術・用具等の理解度

＊各技術の特徴及び長所・欠点の指摘・説明・対応処置の解説

＊各用具の特徴及び長所・欠点の指摘・説明・対応処置の解説

５．養成講習会実施の方法

（１） 主任検定員養成講習会開催は、JMSCAが主催・主管をする。

（２） 主任検定員養成講習会実施には、JMSCA公認主任検定員が２名以上含まれていること。

（３） 開催費用は、会議室・施設・事務経費・講師・検定員等にかかる経費はJMSCAが負担する。

（４） 講師・検定員は、JMSCAスポーツクライミング指導委員会・スポーツクライミング部から派遣又は委嘱する。

（５） 受講料は別途定める。

（６）交通費・宿泊費・食費その他は、参加者負担とする。

令和 年　 月 日

　公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会　会長殿

山岳連盟（協会）

会　長　 　　　　　印

公益財団法人日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者資格復活登録のための

更新研修会参加証明書

下記の者が、公益財団法日本スポーツ協会　公認スポーツ指導者資格の復活登録のために所定の研修会に参加したことを証明します。

記

１．氏　　 名：

２．旧登録番号：

３．資 格 名：

４．資格有効期限：

５．住　　 所：　〒

６．電 話 番 号:

以上

# 指導者更新登録のための研修（更新研修）の申請から承認および実績の入力

JMSCA指導者登録及び更新登録に関する規約に基づき、コーチ１、コーチ２、コーチ３及びコーチ４の更新登録に必要な更新研修の対象となる研修を実施しなければならない。

1. 更新登録のための更新研修の実施について

都道府県山岳連盟（協会）が更新研修を開催する場合は、下記の手順で公認スポーツ指導者登録管理システムへ入力申請し、JMSCAの承認を受け、更にJSPOの承認を受け実施しなければならない。

1. 都道府県山岳連盟（協会）が開催・システム申請する場合

①申請～承認～受付開始

テキスト が含まれている画像

自動的に生成された説明

※システム申請する場合の注意事項

・指導者管理システムの義務研修会の申請でＷｅｂ告知およびＷｅｂ募集は、しないにしてください。

・研修会の名称は、○○研修会として、内容も研修会にしてください。

JSPOの公認スポーツ指導者の義務研修の条件は、講習会は、講師であること。

　研修会は、指導者同士が研鑚をするので参加者は全員ＯＫになっているため。

・研修時間は、３時間以上でなければなりません。JSPOよりの指導

　３時間未満の研修会・講習会は、他の研修会をプラスして、３時間以上にして申請してください。

申請日　　　年　　月　　日

公益財団法人　日本スポーツ協会

事務局長　殿

　　　　　　　　　　　氏名　　　　　　　　　　　　印

公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

復活登録申請書　兼　申請要件調査書

標記の件について、下記のとおり資格の復活登録申請をいたします。

Ⅰ．申請者情報

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| １．氏名（ふりがな） | ２．性別  　男性　女性 | | ３．生年月日  　　　１９　　　年　　　　月　　　　日 |
|
|
| ４．住所 〒 | | | ５．電話（携帯電話等） |
|
|
| ６．申請区分（どちらかに○） 　　未手続による再登録　　有効期限切れによる再登録 | | | ６．以前の有効期限 （有効期限切れの場合） |
|
|
| ７．以前の登録番号 （下７桁を記載／有効期限切れの場合） | | ８．申請資格  競技名： 資格名： | |
|
|

Ⅱ．復活登録申請理由

資格復活登録申請をする理由について具体的に記入してください。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

Ⅲ．今後の指導活動予定

指導対象・活動場所・指導に対する心構え等について具体的に記入してください。（100字以上）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

# 資格の復活登録手続きについて

公認スポーツ指導者資格の有効期限は４年間となっており、有効期限内に研修を受講しなかったり更新手続きを行わなかった場合には、公認スポーツ指導者資格を失う(有効切れ)ことになります。

ただし、復活登録申請に定められた基準を満たし承認された場合には資格復活登録が認められます。

今回の変更により、資格失効期間の長短に関わらず復活登録することができます。

１．復活登録申請に定められた基準

　　（１）今後指導活動の予定・意欲があるか

　　　　申請書に基づきJSPOが審査します。

（２）資格登録に値する指導力を有するかを審査

　　　都道府県山岳連盟（協会）にて判断して、有する場合は、

「公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格復活登録のための

更新研修会参加証明書」を発行してください。

２．復活登録手続きの申請書類

（１）申請書（申請者が記入）

（２）更新研修会参加証明書（都道府県山岳連盟（協会）が作成　※印鑑必要）

３．復活登録費用

　　（１）日本スポーツ協会登録料（１２，０００円）

復活登録を認める場合は、JSPOより指導者本人へ登録に関する書類をお送りしますので、案内に従って登録手続きをします。  
※復活登録を承認しても登録手続きを行わなければ登録されませんのでご注意ください。

　　　　（２）JMSCA審査料（２，０００円）

　　　　　　ゆうちょへ振り込み

　　　　（３）都道府県山岳連盟（協会）審査料

1,０００円～２，０００円程度を都道府県山岳連盟（協会）にて決めてください。

# 公認スポーツ指導者資格復活登録にかかる事務手続き手順

１．復活登録が必要な条件

有効期限が切れて1年未満の場合は申請手続きをしなくても「資格保留期間」として登録に関する書類をお送りします。

有効期限が切れて1年以上経過した場合に復活登録が必要になります。

２．例)有効期限2020年9月の場合、2020年10月未更新でも、2021年4月登録及び2021年10月登録の案内が届きます。  
※更新要件(研修)を満たし、実績を入力しないと案内は届きません。

３．申請先および申請時必要なもの

（１）申請先

①個人→都道府県山岳連盟（協会）

②都道府県山岳連盟（協会）→JMSCA　指導委員会

（２）JMSCAへ申請時必要なもの

①申請書（指導者個人が記入）

②義務研修会参加証明書（都道府県山岳連盟（協会）が作成　※印鑑必要）

③審査料(2,000円)

※JMSCAの審査料です。下記の郵便局口座へお振込下さい。

ゆうちょ銀行　口座番号　　００１１０－８－４０７２６１

　加 入 者 名　（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会

シャ）ニホンサンガク・スポーツクライミングキョウカイ

４．更新研修会参加証明書

都道府県山岳連盟（協会）で、復活登録要件を満たしていると判断（１年以内程度で義務研修会に参加し、指導活動に意欲があるか）した場合は、別紙の更新研修会参加証明書を発行してください。

（更新研修の入力は、都道府県山岳連盟（協会）で行ってください。

５．申請後の流れ

（１）都道府県山岳連盟（協会）より提出された再登録申請書および更新研修会参加証明書を、JMSCAで審査して、取りまとめて、JSPOに申請します。

（２）JSPOでの審査内容

JSPOにて今後指導活動の予定・意欲があるかを審査する。  
※申請書に記載された内容を審査。資格の必要性や活動計画などを審査。

（３）審査結果通知

審査結果については、JSPO→JMSCA→都道府県山岳連盟（協会）→本人へ連絡。

６．おおよその日程例

　　２０２０年１０月１日登録は、２０２０年５月下旬までに申請（ここで締め切られます）

　　JSPO→JMSCAへ審査結果の通知

　　２０２０年７月からJSPOより本人へ登録手続きの書類が届きます。

※復活登録を承認しても登録手続きを行わなければ登録されませんのでご注意ください。  
※復活登録にあたっては、JSPOへの新規登録料3,000円が必要になります。（JSPOより　直接本人へ案内があります）

都道府県山岳連盟（協会）の

# 公認スポーツ指導者管理システムの利用について

２０１５年度より「公認スポーツ指導者登録管理システム」の名称が、「公認スポーツ指導者管理システム」（以下指導者管理システムという）に変わりました。

　今までの「指導者管理」、「更新研修管理」の他に、新たに、「受講管理」が追加されました。指導者養成講習会を開催するときには、講習会の開催の編集および申込者の代理申込の入力をしてください。

１．システム利用のメリット

（１）一定のインターネット環境があればシステム閲覧が可能になります。

※従来は、JMSCA事務所の１箇所のみでした。

（２）一定の条件を満たした場合、都道府県山岳連盟（協会）でもシステム閲覧及び住所変更等が可能になります。

（３）４年分の更新研修受講履歴の保存が可能となります。

（４）指導者が直接「指導者マイページ」の閲覧が可能になります。有効期限や研修受講状況の確認、住所変更等が可能になります。

２．システムの利用にあたって

（１）注意事項

* + 1. ＩＤは他人に推測されにくいものに！
    2. ＩＤ・パスワードの取り扱いには厳重な注意を！

（決して他人に貸したり教えたりしない／ＰＣにメモを貼らない等）

* + 1. ＩＤ・パスワードをブラウザに記憶させない！
    2. 必ずウイルス対策をおこなう！

（２）一定の条件とは

①　管理者ＩＤ申請書の同意事項に同意すること

②　システムの利用にあたっては、申請者が適切にシステムを利用するようJMSCAが監督・指導を徹底いたしますに同意し申請すること。

③　アカウント発行のとりまとめをJMSCAがおこなうこと。

（３）システム利用者区分と利用者ができること

* + 1. 都道府県山岳連盟（協会）に個人（担当者）で、２つのＩＤを発行します。
    2. セキュリティ上、このアカウントは当該年度間のみ有効とし、年度ごとに更新作業をおこないます。
    3. 都道府県山岳連盟（協会）の担当者（２人）でも、登録管理システムの利用が可能となり、所属都道府県の指導者の閲覧、住所変更などができます。
       1. 変更できない項目もあります。
       2. 修正履歴が残ります。

（４）セキュリティの観点からのお願い

①システム利用者について

「担当者不在で状況が確認できない」「担当者１人に任せきり」ということのないよう、都道府県山岳連盟（協会）２名の申請をお願いします。

②システムを利用する場所について

　やむを得ない場合を除き、申請書に記入した場所・パソコン以外（ネットカフェ等）からはアクセスしないようお願いします。

（５）都道府県山岳連盟（協会）のアカウント発行の流れ

①申請者の人数分、様式１「公認スポーツ指導者指導者登録管理システム管理者ＩＤ申請書　兼　誓約書」を作成してください。

・署名部分は必ず直筆とし、捺印をお願いいたします。

・同意事項をよくお読みのうえ、署名をお願いいたします。

②JMSCAにて都道府県山岳連盟（協会）から提出された書類を取りまとめ、様式２及び様式３「アカウント申請一覧表」をデータにて作成のうえ、JSPOへＥメールにてお送ります。

・エクセルファイルで作成します。

・送付先アドレス：touroku@japan-sports.or.jp

　　　　　　※上記②はJMSCA指導委員会の作業です。参考で記載しています。

＜提出書類＞

様式１「公認スポーツ指導者登録管理システム管理者ＩＤ申請書兼誓約書」：原本を人数分

様式２「公認スポーツ指導者登録管理システム　アカウント発行申請について」：１部

様式３「アカウント申請一覧表」は原本の提出は不要です。

３．受講管理について

　　（１）講習会の開催について

　　　　　　毎年１２月に、都道府県体育協会（以下体協という）より都道府県山岳連盟（協会）に、翌年度の指導者養成講習会をするかのアンケートが行きます。そのアンケートにすると回答すると、翌年の３月ごろにJSPOが講習会の枠を作ってくれます。その枠に具体的に開催内容を編集し開催要項を作ります。

　　（２）講習会の申し込みについて

　　　　　　原則的には、受講者がJSPOのマイページより指導者養成講習会を選択して申し込みを行います。

　　　　　申し込み（コンピュータへの入力）ができない人は、アカウント保有者が代理申込（入力）を行い申し込みが完了します。

　　　　　※今までのような書面でJSPOに申し込むことはできません。

　　　　　※マイページより、選択が可能なので、他県の知らない人より申し込みがあります。年令、経験、その他の受験条件を提示して、認定が通るようにしてください。

公認スポーツ指導者指導者登録管理システム

管理者ＩＤ申請書　兼　誓約書

私は、公認スポーツ指導者登録管理システム（以下、「登録管理システム」）の利用について、下記のとおり申請いたします。また、利用に際して下記事項を順守することを誓います。

１．申請者情報

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 所属団体名 |  | | |
|  |  | 団体区分  （ひとつに○） | 中央・ブロック・都道府県 |
| 団体内役職 |  | 連絡先 |  |

２．登録するＥメールアドレス（携帯電話のアドレスは不可）

|  |
| --- |
| ＠ |

３．システムにログインする端末の情報

|  |  |
| --- | --- |
| 端末の種類  （ひとつに○） | デスクトップパソコン・ノートパソコン・その他［　　　　　　　　］ |
| 端末の設置場所 |  |

【同意事項】

1. 私は、登録管理システムのＩＤおよびパスワードを厳重に管理し、他人にアカウントを使用させません。
2. 私は、登録管理システムの利用を通して知り得た個人情報について、保有する必要がなくなったときは、確実且つ速やかに廃棄または消去します。個人情報を印刷した書類についてはシュレッダー、溶解等により再生不可能な形で廃棄します。
3. 私は、WindowsUpdate等による修正プログラムが適用された環境下でのみ登録管理システムを利用します。
4. 私は、最新のウィルスソフトがインストールされている環境下でのみ登録管理システムを利用します。
5. 私は、Winny等、情報を漏洩させる恐れのあるファイル交換ソフトがインストールされたパソコンからは登録管理システムを利用しません。
6. 私は、日本スポーツ協会が申請者の利用環境について一切関与せず、一切の責任を負わないことに同意します。

令和　　年　　月　　日

署名：　　　　　　　　　　印

# 公認スポーツ指導者の登録事項変更手続きについて

公認スポーツ指導者に対して、JSPO、都道府県岳連（協会）からの連絡は、登録時に申請された氏名及び住所宛に行われます。

住所や氏名などの事前登録事項に変更（訂正）が生じた場合や、移籍する場合には、JSPOへの手続きと同時に、速やかに「登録事項変更届【様式1】」に必要事項を記入し、所属する都道府県岳連（協会）へご提出ください。

この手続きを怠りますと、今後の事務連絡や登録更新等の手続きのご案内が届かず、資格を失効してしま

うことにもなりかねませんので、十分ご注意ください。

１．JSPOへの手続き

JSPOのホームページより変更手続きをして下さい。

https://jasacm.japan-sports.or.jp/cms/form/event.php?eid=136

※ スポーツジャーナルの住所変更届でも可能かと思います。

※ 所属都道府県（所属岳連（協会）の所在都道府県）を必ず入力して下さい。

２．道府県岳連（協会）への手続き

下記手順で変更手続きをお願いします。

２－１ 登録事項を変更する場合の手続き

（１）申請時期

登録事項に変更が生じたことが明らかになった時点から、速やかに手続きをお願いします。

（２）手続方法

登録事項変更届【様式１】に変更(訂正)事項を記入し、所属都道府県岳連事務局まで郵送願い

ます。

２－２ 所属都道府県移籍の手続き

（１）申請時期 移籍することが明らかになった時点から、速やかに手続きをお願いします。

（２）手続方法 移籍先の都道府県岳連（協会） 指導者担当まで

１） 移籍前の都道府県岳連（協会）へ移籍する旨の連絡をする。

２） 移籍先の都道府県岳連（協会）に、登録事項変更届【様式１】を提出する

※登録事項変更届【様式１】は、都道府県岳連（協会）を通じて、JMSCAに届けられます。

※所属都道府県は、所属する岳連（協会）の所在都道府県のことで、本人がお住まいの都道府県とは異なる場合があります。

# 公認スポーツ指導者等表彰要項

１．趣旨

永年にわたりスポーツ指導者として、スポーツの指導育成及び組織化、競技力の向上、公認スポーツ指導者制度の発展その他国民スポーツの振興に貢献した者のうち、特に顕著な功績があった者を表彰し、その功に報いるとともに、将来のスポーツ界を担う若手指導者の奨励を通じて、今後における公認スポーツ指導者制度の一層の発展に資する。

２．表彰の基準

表彰の対象は、以下の各号の基準を満たす者とし、第 1 号から第 4 号までは公認スポーツ指導者とする。

（１）永年表彰

公認スポーツ指導者資格登録認定後、通算 15 年以上にわたりスポーツの指導育成及び組織化等に尽力し、顕著な功績が認められ、原則として所属する中央・都道府県・市区町村の各競技団体若しくは都道府県・市区町村体育（スポーツ）協会、又は国・地方公共団体から表彰を受けた者。ただし、過去において本基準による表彰を受けたことがない者であること。

（２）優秀選手育成賞

公認スポーツ指導者として、競技の普及や競技力の向上に尽力し、前年度に開催されたオリンピック競技大会、アジア競技大会又はこれに準じる国際大会において、優秀な成績をあげた選手を育成指導してきた者。ただし、過去において同一選手の成績に基づき本基準による表彰を受けたことがない者であること。

（３）若手指導者奨励賞

受賞年度に満 30 歳以下の者のうち、今後、当該推薦団体において中心的な役割を担うことが期待される者。ただし、過去において本基準による表彰を受けたことがない者であること。

（４）退任感謝状

おおむね 15 年以上にわたりスポーツの指導育成に貢献し、特に顕著な功績を残し退任した公認スポーツ指導者

（５）特別功労表彰

公認スポーツ指導者制度の確立及び発展などのために貢献し、顕著な功績があるとして本会が特に認めた者、並びに公認スポーツ指導者として特に模範となる功績を上げたと本会が特に認めた者。

３．候補者の推薦

候補者の推薦は、次の各号により行うものとする。

（１）前項第 1 号に定める候補者については、加盟都道府県体育（スポーツ）協会及び加盟中央競技団体が、別に定める様式により推薦を行うものとする。この場合、都道府県体育（スポーツ）協会については、前年度公認スポーツ指導者登録者数 500名まで 1 名、以下 500 名までを越えるごとに 1 名を増やした人数を、中央競技団体については、1 団体 3 名以内を推薦することができる。

（２）前項第 2 号および第 3 号に定める候補者については、加盟中央競技団体が別に定める様式により推薦を行うものとする。

（３）前項第 4 号に定める候補者については、加盟団体が特に必要と認めた場合に推薦を行うものとする。

（４）前項第 5 号に定める候補者については、本会が直接推薦を行うものとする。

４．被表彰者の決定

被表彰者は、本会会長が指導者育成専門委員会の審査を経て、決定するものとする。

ただし、前項第 4 号については、加盟団体長にその審査を委任することができる。

５．表彰の方法

表彰の基準第 1 号、第 2 号、第 4 号、第 5 号については、本会会長が表彰状又は感謝状を授与する。

表彰の基準第 3 号については、本会指導者育成専門委員会委員長が表彰状を授与する。

６．附則

この要項は平成 7 年 5 月 16 日から施行する。

この要項は平成 11 年 3 月 8 日から施行する。

この要項は平成 19 年 8 月 22 日から施行する。

この要項は公益財団法人日本スポーツ協会の設立の登記の日（平成 23 年 4 月 1 日）から施行する。

この要項は平成 27 年 9 月 24 日から施行する。

この要項は、令和元年10月10日から施行する。

# 公認スポーツ指導者資格制度

１．スポーツクライミングスタートコーチ

2019年4月1日現在

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **主催** | | | 公益財団法人日本スポーツ協会  公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 |
| **養成目的** | | | 保護者・教員・施設管理者・ボランティア等で、普及活動や学校部活活動などの指導者を養成する。 |
| **役割** | | | 学校部活や地域活動において、楽しく安全にスポーツクライミングを行えるような指導をする。 |
| **養成講習会に係る内容** | **受講条件** | | ・受講年度の4月1日現在満18歳以上の者。  ・都道府県山岳・スポーツクライミング連盟（協会）がスポーツクライミング経験者であると認めた者。  ・日本山岳・スポーツクライミング協会が認めた者。 |
| **受講科目** | 共通科目 | 共通科目スタート（15h） |
| 専門科目 | スポーツクイライミングスタートコーチ専門科目（15h） ※別紙カリキュラム表参照 |
| **受講料** | 共通科目 |  |
| 専門科目 | 競技団体によって別途定める |
| スタートコーチ | 競技団体によって別途定める |
| **実施方法** | 共通科目 | 別に定める共通科目実施要領に基づき日本スポーツ協会が実施する |
| 専門科目 | ■講習会  カリキュラム（15時間）に基づき、都道府県山岳連盟（協会）を主管として集合講習会と通信講習（レポート）により開催する。実際の実施計画については都道府県連盟（協会）と都道府県体育協会で相談の上、JSPOとJMSCAの承認を得て実施する。  ■検定試験  JMSCA指導委員会が作成したものを参考に各都道府県の実情に合わせ作成・出題 し、筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定とする。  ■審査  合格者の判定は筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定結果を基に、JMSCA 指導委員会で審査の上、原則として満点の６割以上を合格とする。  ■免除要件 |
| **登録に係る内容** | **登録料(4年間）** | | 基本登録料：10,000円 |
| 資格別登録料： 円 |
| 初期登録手数料（初回登録時のみ）：3,000円 |
| **更新登録要件** | | 資格登録有効期限の６か月までに、最低1回は、JMSCAが定める研修会またはJSPO（都道府県体育協会が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。 |
| **特記事項** | | |  |

スポーツクライミングスタ－トコーチ

2019年4月1日現在

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | カリキュラム内容 | | 時間数 | | |
| № | 科目 | 集合 | その他 | 計 |
| ①  基礎理論 | ① | クライミングの基礎 | 1.00h | 1.00h | 2.00h |
| ② | クライミング(人工壁)の技術・安全・用具 | 1.00h | 1.00h | 2.00h |
| ③ | 医学（ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止） | 0.00h | 1.00h | 1.00h |
| ④ | 法律（指導者の法的責任） | 0.00h | 1.00h | 1.00h |
| 小 計 | | 2.00h | 4.00h | 6.00h |
| ②  実技・指導実習 | ① | 用具 | 1.00h | 1.00h | 2.00h |
| ② | クライミング | 1.00h | 0.00h | 1.00h |
| ③ | 確保 | 3.00h | 3.00h | 6.00h |
| 小 計 | | 5.00h | 4.00h | 9.00h |
|  | | | 7.00h | 8.00h | 15.00h |

２．スポーツクライミングコーチ１

2021年4月1日現在

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 主催 | | | 公益財団法人日本スポーツ協会  公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 |
| 養成目的 | | | 都道府県レベルにおいて、年齢・技術レベルに応じてクライミング教室や、学校登山部活動等で基礎的な実技指導にあたる指導者を養成する。 |
| 役割 | | | 都道府県レベルにおいて、スポーツクライミング・ボルダリングの技術の普及および初心者の指導に努める。国民体育大会の選手指導および監督となる。 |
| **養成講習会に係る内容** | 受講条件 | | 受講年度の４月１日現在満20歳以上で都道府県山岳連盟（協会）が認めるもので下記条件の全てを満たす者。  (１)5．10以上をリ−ドクライミングできると判断された者。  (２)人工壁に於いて、初心者の指導実績を有し、指導できると判断された者。  (３)日本山岳・スポーツクライミング協会が認めた者。 |
| 受講科目 | 共通科目 | 共通科目Ⅰ（45h） |
| 専門科目 | スポーツクイライミングコーチ1専門科目（30h） ※別紙カリキュラム表参照 |
| 受講料 | 共通科目 | 共通科目Ⅰ：18,700円（税込）※別途リファレンスブック代：3,300円（税込） |
| 専門科目 | 競技団体によって定める |
| スタートコーチ | 円（ ） |
| 実施方法 | 共通科目 | 別に定める共通科目実施要領に基づき日本スポーツ協会が実施する |
| 専門科目 | ■講習会  カリキュラム（30時間）に基づき、都道府県山岳連盟（協会）を主管として集合講習会と通信講習（レポート）により開催する。実際の実施計画については都道府県連盟（協 会）と都道府県体育協会で相談の上、JSPOとJMSCAの承認を得て実施する。  ■検定試験  JMSCA指導委員会が作成したものを参考に各都道府県の実情に合わせ作成・出題 し、筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定とする。  ■審査  合格者の判定は筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定結果を基に、JMSCA 指導委員会で審査の上、原則として満点の６割以上を合格とする。  ■免除要件 |
| **登録に係る内容** | **登録料(4年間）** | | 基本登録料：10,000円 |
| 資格別登録料： 円 |
| 初期登録手数料（初回登録時のみ）：3,000円 |
| 更新登録要件 | | 資格登録有効期限の６か月までに、最低1回は、JMSCAが定める研修会または  JSPO（都道府県体育協会が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。 |
| 特記事項 | | |  |

スポーツクライミングコーチ１

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 2019年4月1日現在 | | | | | |
| 区分 | カリキュラム内容 | | 時間数 | | |
| № | 科目 | 集合 | その他 | 計 |
| ①  基礎理論 | ① | クライミングの基礎、指導者制度 | 2h | 0h | 2.00 h |
| ② | クライミング(人工壁)の技術・安全・用具 | 4h | 0h | 4.00 h |
| ③ | 医学（ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止） | 3h | 0h | 3.00 h |
| ④ | 法律（指導者の法的責任） | 1h | 0h | 1.00 h |
| ⑤ | セッティング・グレード | 1h | 0h | 1.00 h |
| ⑥ | 競技 | 2h | 0h | 2.00 h |
| 小 計 | | 13.00 h | 0.00 h | 13.00 h |
| ②  実技・指導実習 | ① | 用具 | 2h | 6h | 8.00 h |
| ② | クライミング | 8h | 1h | 9.00 h |
| ③ | 確保 | 3h | 0h | 3.00 h |
| ④ | セッティング | 2h | 0h | 2.00 h |
| ⑤ | 競技 | 2h | 3h | 5.00 h |
| 小 計 | | 17.00 h | 10.00 h | 27.00 h |
|  | | | 30.00 h | 10.00 h | 40.00 h |

３．スポーツクライミングコーチ２

2019年4月1日現在

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 主催 | | | 公益財団法人日本スポーツ協会  公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 |
| 養成目的 | | | 都道府県レベルにおいて、年齢・技術レベルに応じた実技指導にあたると共にクライミング教室・競技会など企画・立案・運営に参画できる実行能力を有する指導者を養成する。 |
| 役割 | | | 都道府県レベルにおいて、スポーツクライミング・ボルダリングの技術向上・発展・普及・指導員の育成に努め、事業推進の中心的役割を果す。国民体育大会の選手指導および監督となる。 |
| **養成講習会に係る内容** | 受講条件 | | 受講年度の４月１日現在満22歳以上で都道府県山岳連盟（協会）が認めるもので下記条件の全てを満たす者。  (１)5．11以上をリ−ドクライミングできると判断された者。  (２)自然壁に於いても実績を有し、指導員を指導できると判断された者。  (３)スタートコーチ、コーチ1を指導出来ると判断された者。  ・日本山岳・スポーツクライミング協会が認めた者。 |
| 受講科目 | 共通科目 | 共通科目Ⅱ（135h） |
| 専門科目 | スポーツクイライミングコーチ2専門科目（40h）※別紙カリキュラム表参照 |
| 受講料 | 共通科目 | 共通科目Ⅱ：17,600円（税込）※別途リファレンスブック代：3,300円（税込） |
| 専門科目 | 競技団体によって定める |
| スタートコーチ | 円（ ） |
| 実施方法 | 共通科目 | 別に定める共通科目実施要領に基づき日本スポーツ協会が実施する |
| 専門科目 | ■講習会  カリキュラム（40時間）に基づき、都道府県山岳連盟（協会）を主管として集合講習会と通信講習（レポート）により開催する。実際の実施計画については都道府県連盟（協会）と都道府県体育協会で相談の上、JSPOとJMSCAの承認を得て実施する。  ■検定試験  JMSCA指導委員会が作成したものを参考に各都道府県の実情に合わせ作成・出題 し、筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定とする。  ■審査  合格者の判定は筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定結果を基に、JMSCA 指導委員会で審査の上、原則として満点の６割以上を合格とする。  ■免除要件 |
| **登録に係る内容** | **登録料(4年間）** | | 基本登録料：10,000円 |
| 資格別登録料： 円 |
| 初期登録手数料（初回登録時のみ）：3,000円 |
| **更新登録要件** | | 資格登録有効期限の６か月までに、最低1回は、JMSCAが定める研修会または  JSPO（都道府県体育協会が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。 |
| **特記事項** | | |  |

スポーツクライミングコーチ2

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 2019年4月1日現在 | | | | | |
| 区分 | カリキュラム内容 | | 時間数 | | |
| № | 科目 | 集合 | その他 | 計 |
| ①  基礎理論 | ① | クライミングの基礎、指導者制度 | 2h | 1h | 3.00 h |
| ② | クライミング(人工壁・自然壁)の技術・安全・用具 | 4h | 2h | 6.00 h |
| ③ | 医学（ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止） | 3h | 0h | 3.00 h |
| ④ | 法律（指導者の法的責任） | 1h | 0h | 1.00 h |
| ⑤ | セッティング・グレード | 1h | 0h | 1.00 h |
| ⑥ | 競技 | 2h | 1h | 3.00 h |
| 小 計 | | 13.00 h | 4.00 h | 17.00 h |
| ②  実技・指導実習 | ① | 用具 | 2h | 3h | 5.00 h |
| ② | クライミング | 5h | 3h | 8.00 h |
| ③ | 確保 | 3h | 0h | 3.00 h |
| ④ | セッティング | 1h | 0h | 1.00 h |
| ⑤ | 競技 | 1h | 0h | 1.00 h |
| ⑥ | 自然壁の技術 | 5h | 0h | 5.00 h |
| 小 計 | | 17.00 h | 6.00 h | 23.00 h |
|  | | | 30.00 h | 10.00 h | 40.00 h |

４．スポーツクライミングコーチ３

2019年4月1日現在

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 主催 | | | 公益財団法人日本スポーツ協会  公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 |
| 養成目的 | | | 国内レベルにおいて、競技者の育成・発掘にあたる指導者を養成する。 |
| 役割 | | | 広域エリアでのスポーツクライミング競技の強化にあたり、各都道府県山岳連盟（協会）における競技者育成システムの研究開発に参画する。 |
| **養成講習会に係る内容** | 受講条件 | | 受講年度の４月１日現在満25歳以上でコーチ２資格を有する者。但しコーチ１資格でも平成31年度以前に有した者は可とする。コーチ２の資格取得後３年以上の指導実績を有するもの  全国大会の競技経験と競技指導経験を有し、5.12のリード経験と指導が出来る者。  日本山岳・スポーツクライミング協会が認めた者。 |
| 受講科目 | 共通科目 | 共通科目Ⅲ（150h） |
| 専門科目 | スポーツクイライミングコーチ3専門科目（60h）※別紙カリキュラム表参照 |
| 受講料 | 共通科目 | 共通科目Ⅲ：20000円（税抜）／教師：56000円（税別）※別途リファレンスブック代： 3000円（税抜） |
| 専門科目 | 競技団体によって別途定める |
| スタートコーチ | 円（ ） |
| 実施方法 | 共通科目 | 別に定める共通科目実施要領に基づき日本スポーツ協会が実施する |
| 専門科目 | ■講習会  カリキュラム（60時間）に基づき、JMSCAが直接集合講習会と通信講習（レポート）により開催する。実際の実施計画については、JMSCAとJSPOとの相談の上実施する。  ■検定試験  JMSCA指導委員会が作成・出題し、筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定 とする。  ■審査  合格者の判定は筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定結果を基に、JMSCA 指導委員会で審査の上、原則として満点の６割以上を合格とする。  ■免除要件 |
| **登録に係る内容** | **登録料(4年間）** | | 基本登録料：10,000円 |
| 資格別登録料： 円 |
| 初期登録手数料（初回登録時のみ）：3,000円 |
| 更新登録要件 | | 資格登録有効期限の６か月までに、最低1回は、JMSCAが定める研修会またはJSPO（都道府県体育協会が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。 |
| 特記事項 | | |  |

スポーツクライミングコーチ３

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 2019年4月1日現在 | | | | | |
| 区分 | カリキュラム内容 | | 時間数 | | |
| № | 科目 | 集合 | その他 | 計 |
| ①  基礎理論 | ① | スポーツクライミング競技動向（国内・国際動向及び最新ルール） | 2.00h | 1.00h | 3.00h |
| ② | トレーニング（計画・体力・メンタル・コンディショニング） | 4.00h | 2.00h | 6.00h |
| ③ | 医学・生理学（障害予防・パフォーマンス向上） | 3.00h | 1.00h | 4.00h |
| ④ | 戦略（情報収集、長期プランニング） | 2.00h | 1.00h | 3.00h |
| ⑤ | 技術論 | 2.00h | 2.00h | 4.00h |
| ⑥ | コーチング（指導法・コミュニケーション・プランニング） | 2.00h | 3.00h | 5.00h |
| 小 計 | | 15.00h | 10.00h | 25.00h |
| ②  実技・指導実習 | ① | トレーニング（パフォーマンス向上） | 7.00h | 2.00h | 9.00h |
| ② | コーチング | 9.00h | 4.00h | 13.00h |
| ③ | トレーニング準備（セッティング・課題選定） | 7.00h | 2.00h | 9.00h |
| ④ | 安全対策（ストレッチング・アイシング・テーピング） | 2.00h | 2.00h | 4.00h |
| 小 計 | | 25.00h | 10.00h | 35.00h |
|  | | | 40.00h | 20.00h | 60.00h |

５．スポーツクライミングコーチ４

2019年4月1日現在

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 主催 | | | 公益財団法人日本スポーツ協会  公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 |
| 養成目的 | | | 国際レベルにおいて、競技者の育成及び育成システムにあたるナショナルコーチを育成する。 |
| 役割 | | | 広域エリアでのスポーツクライミング競技の競技力向上にあたり、国際大会における 競技者育成と育成システムの研究開発に参画する。  国民体育大会の選手指導および監督資格とする。 |
| **養成講習会に係る内容** | 受講条件 | | ・受講年度の4月1日現在満30歳以上の者。 ・コーチⅢ資格取得後3年以上の指導実績を有する者。・国際大会の競技経験と競技指導経験を有した者。 ・5.13以上のリード経験及び初段以上のボルダ経験と指導が出来る者。 ・日本山岳・スポーツクライミング協会が認めた者。 |
| 受講科目 | 共通科目 | 共通科目Ⅳ（151h以上） |
| 専門科目 | スポーツクイライミングコーチ4専門科目（40h）※別紙カリキュラム表参照 |
| 受講料 | 共通科目 | 共通科目Ⅳ：30,800円（税込）／上級教師：61,600円（税込） |
| 専門科目 | 競技団体によって別途定める |
| スタートコーチ | 円（ ） |
| 実施方法 | 共通科目 | 別に定める共通科目実施要領に基づき日本スポーツ協会が実施する |
| 専門科目 | ■講習会  カリキュラム（40時間）に基づき、JMSCAが直接集合講習会と通信講習（レポート）により開催する。実際の実施計画については、JMSCAとJSPOとの相談の上実施する。  ■検定試験  JMSCA指導委員会が作成・出題し、筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定 とする。  ■審査  合格者の判定は筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定結果を基に、JMSCA 指導委員会で審査の上、原則として満点の６割以上を合格とする。  ■免除要件 |
| **登録に係る内容** | **登録料(4年間）** | | 基本登録料：10,000円 |
| 資格別登録料： 円 |
| 初期登録手数料（初回登録時のみ）：3,000円 |
| 更新登録要件 | | 資格登録有効期限の６か月までに、最低1回は、JMSCAが定める研修会または  JSPO（都道府県体育協会が実施する（認める）研修を含む）が実施する研修を受けなければならない。 |
| 特記事項 | | |  |

スポーツクライミングコーチ４

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 2022年4月1日現在 | | | | | |
| 区分 | カリキュラム内容 | | 時間数 | | |
| № | 科目 | 集合 | その他 | 計 |
| ①  基礎理論 | ① | スポーツクライミング競技動向（国内・国際動向及び最新ルール） | 2.00h | 10.00h | 12.00h |
| ② | コーチ育成（現状把握と改善構築) | 2.00h | 8.00h | 10.00h |
| ③ | 医学・生理学（障害予防・パフォーマンス向上） | 2.00h | 5.00h | 7.00h |
| ④ | 技術論 | 1.00h | 8.00h | 9.00h |
| ⑤ | 戦略（情報収集、長期プランニング） | 2.00h | 9.00h | 11.00h |
| ⑥ | チームビルディング | 2.00h | 3.00h | 5.00h |
| 小 計 | | 11.00h | 43.00h | 54.00h |
| ②  実技・指導実習 | ① | トレーニング（パフォーマンス向上） | 2.00h | 6.00h | 8.00h |
| ② | コーチング | 3.00h | 6.00h | 9.00h |
| ③ | 選手強化合宿の実践 | 3.00h | 2.00h | 5.00h |
| ④ | 国際試合の実践対応 | 2.00h | 2.00h | 4.00h |
| 小 計 | | 10.00h | 16.00h | 26.00h |
|  | | | 21.00h | 59.00h | 80.00h |

# 公認スポーツクライミングコーチ検定基準（コーチ１・コーチ２）

**検定評価の方法**

**１．概 要**

検定評価は各検定項目について、指導法（知識）と実技（実践）について行う事にする。

特に指導法では、手順、要領を簡潔、明解に説明、解説出来る事が重要である 。

実技（実践） については要点を強調し、正しい用語で説明し、実践出来なければならない。

**２．評価の方法について**

◇指導法 **・・・・・・・・・・**100点

◇実技　　　　　　　**・・・・・・・**100点

◇基礎理論**・・・・**学科 　 100点

合格点は設定している指導法・実技・学科の合計点が200点以上で大項目の指導法・実技、学科それぞれに60%未満がない事とする。

**３．項目別評価**

（１）コーチ2は、コーチ1及びコーチ2の項目を検定対象とする。

（２）各大項目別に200点を配点した。

指導法**・・・・・・・・・・**100点

実　技**・・・・・・・・・・**100点

（３）各小項目は重要度の高いものには◎印を、次に重要とするものには○印をつけた。

　　　　　　　　　　　　 コーチ1　　　 　コーチ2

①　用具　　　　　　　　　　　　　50点　　　　　　　40点

②　クライミング　　　　　　　　　70点　　　　　　　55点

③　確保　　　　　　　　　　　　　 50点　　　　　　　45点

④　セッティング　　　　　　　　　 15点　　　　　　　15点

⑤　競技　　　　　　　　　　　　　15点　　　　　　　15点

⑥　自然壁の技術　　　　　　　　　　　　　　　　　　 30点

**４．留意事項**

実技講習・検定では確保器・下降器はチューブ型ビレイデバイスを使用して行う。

**公認スポーツクライミングコーチ1**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **区分** | **カリキュラム内容** | | **時間数** | | |
| **№** | **科目** | **集合** | **その他** | **計** |
| **（１）基礎理論** | ① | クライミングの基礎、指導制度 | 2h | 0h | 2h |
| ② | クライミング(人工壁)の技術・安全・用具 | 4h | 0h | 4h |
| ③ | 医学（ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止） | 3h | 0h | 3h |
| ④ | 法律（指導者の法的責任） | 1h | 0h | 1h |
| ⑤ | セッテイング・グレード | 1h | 0h | 1h |
| ⑥ | 競技 | 2h | 0h | 2h |
| **小計** | | **13h** | **0h** | **13h** |
| **（２）指導法・実技** | ① | 用具 | 2h | 6h | 8h |
| ② | クライミング | 8h | 1h | 9h |
| ③ | 確保 | 3h | 0h | 3h |
| ④ | セッティング | 2h | 0h | 2h |
| ⑤ | 競技 | 2h | 3h | 5h |
| **小計** | | **17h** | **10h** | **27h** |
| **合計** | | | **30h** | **10h** | **40h** |

**公認スポーツクライミングコーチ2**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **区分** | **カリキュラム内容** | | **時間数** | | |
| **№** | **科目** | **集合** | **その他** | **計** |
| **（１）基礎理論** | ① | クライミングの基礎、指導者制度 | 2h | 1h | 3h |
| ② | クライミング(人工壁・自然壁)の技術・安全・用具 | 4h | 2h | 6h |
| ③ | 医学（ストレッチ・スポーツ外傷・ドーピング防止） | 3h | 0h | 3h |
| ④ | 法律（指導者の法的責任） | 1h | 0h | 1h |
| ⑤ | セッテイング・グレード | 1h | 0h | 1h |
| ⑥ | 競技 | 2h | 1h | 3h |
| **小計** | | **13h** | **4h** | **17h** |
| **（２）指導法・実技** | ① | 用具 | 2h | 3h | 5h |
| ② | クライミング | 5h | 3h | 8h |
| ③ | 確保 | 3h | 0h | 3h |
| ④ | セッティング | 1h | 0h | 1h |
| ⑤ | 競技 | 1h | 0h | 1h |
| ⑥ | 自然壁の技術 | 5h | 0h | 5h |
| **小計** | | **17h** | **6h** | **23h** |
| **合計** | | | **30h** | **10h** | **40h** |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **スポーツクライミング** | | | |
|  | | | |
| 大項目 | 用具 | 大項目得点  (コーチ1/コーチ2) | 50/40　点 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| ハーネス | ○  ◎  ○  ◎  ○ | ハーネスの種類、特徴、用途  ハーネスの各部の名称と用途  サイズの選び方  サイズ不適合の際の危険  装着方法  装着後の安全確認 | ◎ | ハーネスの装着 |
| シューズ・  ビレイデバイス・  クイックドロー・  ヘルメット | ○  ○  ○  ○ | 機能、特徴、サイズ  機能、構造、操作方法  スリングの長さ  カラビナの形状、向き  劣化、耐用年数 |  |  |
| ロープ | ◎  〇  ○  〇  〇  〇 | ロープの種類、特徵、用途  ロープの表記について  ロープの安全基準  ロープの点検  劣化、耐用年数  熱、化学薬品への弱点 |  |  |
| ハーネスへの  結索 | ◎  ◎  ◎  ◎    〇 | ハーネスにロープを直接結ぶ  ８の字結び  (フィギュアエイト・フォロースルー)  カラビナを使用する  ダブルフィギュアエイト・オンアバイト  (ラビットノット)  末端処理  ボーラインノットでのリング荷重に  ついて | ◎  ◎  ◎ | ８の字結び  (フィギュアエイト・フォロースルー)  での結索とその手順  ダブルフィギュアエイト・オンアバイト  (ラビットノット)の手順  末端処理 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| コーチ2項目 |  | | | |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
|  | ◎ | 最初につくる８の字への複数のロープの通し方での結索 | ◎ | 最初につくる８の字への複数のロープの通し方での結索とその手順 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツクライミング | | | |
|  | | | |
| 大項目 | クライミング　　　　　　　　　　　　　　　　(トップロープ・リード・ボルダリング) | 大項目得点  (コーチ1/コーチ２) | 70/55　点 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| トップロープ  クライミングの  概要 | ◎  〇  ○  ○  ○  ◎ | 上部支点から折り返されたロープによりクライマーを確保するクライミングシステム  クライミングに際しては、登った分だけロープをビレイヤーが手繰るシステムのためクライマーの墜落を最小限にとどめられる  初心者又は新たなルートの練習に使われる事もある  トップロープ用に設定されたルートもある  ロープに体重を掛けずに登りきる事が完登の条件  クライミングを開始してすぐはロープの伸びがあるためにビレイはロープを張りぎみに操作する(グランドフォールの回避) |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 支点（アンカー）の  構築 | ◎  ◎  ◎  〇  〇  〇  ◎  ○  **・**  ○  ◎  ◎  ○  ◎  ◎  **・**  **・**  **・**  ◎  ○ | 支点の設置  支点は必ず複数箇所からとる  支点の種類と構築の方法  流動分散  固定分散  カラビナの形状  上部支点が１点で取られると、もしそれが破壊すると致命的な事故となる  既設の支点への注意  バックアップの必要性  ロープは支点のスリングには決して掛けてはいけない  摩擦熱によるロープ及びスリングの切断の危険について  ロープをかけるカラビナは同形状のロッキングカラビナ２枚を使用する  カラビナの形状  カラビナゲートを互い違いにする  中間支点  傾斜が強いルートでの必要性  蛇行するルートでの必要性  バックアップとしての重要性  支点構築作業は高所で行うため危険を伴う作業となる  必ずセルフビレイ（自己確保）を取り作業をする | ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎ | 支点は必ず複数箇所からとる  支点構築作業  流動分散  固定分散  ロープをかけるカラビナは同形状のロッキングカラビナ２枚を使用する  カラビナゲートを互い違いにする |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| トップロープ  クライミング | ◎  ◎  ◎  ◎  〇  ◎  ◎  ◎  ▪  ◎  ◎ | 施設の安全確認  クライマー、ビレイヤーの準備確認  クライミング開始以前に合図方法を確認する  ビレイヤー、クライマーがお互いにルートの確認をする  ロープを結んでからシューズを履く  クライミング中の合図  ロープの交差  摩擦熱によるロープ切断の危険  クライミング時の注意点  使用してはいけない場所  ハンガー、壁のエッジ  クライマーとロープの位置関係  口ワーダウン時のクライマーの態勢 | ◎  ◎  ◎  ◎  〇  ◎  ◎  ◎ | クライマー、ビレイヤー間にてお互いの準備態勢が出来ているか  ハーネスは正しく装着している  ロープのハーネスへの結索は正しく出来ている  ビレイヤー、クライマーがお互いにルートの確認が出来ている  シューズを履くタイミング  クライミング中の合図  ロープの交差がないか  ロワーダウン時のクライマーの態勢 |
| 回収 | ◎  ◎ | 支点の回収と安全注意  終了点でのロープのかけ替え | ◎ | 終了点でのロープのかけ替え |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| リードクライミング  の概要 | ◎  ◎  ◎  ◎  ◎ | ランニングビレイに次々とロープをクリップしながら登るクライミングシステム  ビレイヤーはクライマーが登る距離に応じてロープを操作する  クライマーが墜落した場合、ビレイヤーはロープ操作により墜落を停止する  最後にクリップしたランニングビレイからの距離に応じた墜落があるためビレイヤーはロープの操作に注意する  クリップの失敗  墜落距離の増大(手繰り落ち) |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| ランニングビレイ | ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎ | クリップの基本動作  フロントクリップ**、**バッククリップの方法  クイックドローのハンガー側、ロープ側のカラビナの向きについて  低い位置でのクリップについて  グランドフォールの危険  Ｚクリップの原因と危険性、直し方  逆クリップとリスクについて | ◎  ◎  ◎  ◎ | クリップの基本動作  フロントクリップ、バッククリップ  クイックドローの向き  Ｚクリップの直し方  逆クリップ |

コーチ２項目

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 回収 | ◎  ◎  ◎  ◎  〇  ◎  ○ | 終了点でのロープの結び直し  ハーネスにロープを直接結ぶ方法  ハーネスとロープの接続にカラビナを使用する方法  ロープが交差していないかの確認  トラバースルートや傾斜のある壁での回収  回収で登る際は最後のクイックドローをビレイ側のロープにクリップしておく | ◎  ◎ | セルフビレイ（自己確保）を取り作業をする  終了点でのロープの結び直し |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| ボルダリングの  概要  施設 | ◎  ◎  ◎  〇  ◎  ○  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  ◎ | ロープクライミングとボルダリングの違い  スタートとゴール  安全な落ち方  両膝のクッションをきかす  クライムダウン  基本のフットワーク(足の使い方)  スタンスへの足の置き方  壁の形状  スラブ  垂壁  前傾壁(オーバーハング)  カンテ  コーナー  リップ  マット  サイズと隙間 | ◎  ◎  ◎ | スタートとゴール  安全な落ち方  基本のフットワーク(足の使い方) |
| 動作 | ◎  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・** | ホールディングについて  クリンプ  カチ(アーケ)  オープンハンド  ピンチ  ガストン  ポケット  パーミング  ラップ | ◎  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・** | ホールディングの実践  クリンプ  カチ(アーケ)  オープンハンド  ピンチ  ガストン  ポケット  パーミング  ラップ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
|  | ◎  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  ◎  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・** | フットワークについて  インサイド  アウトサイド  フラッキング  ヒールフック  トウフック  ニーバー  スメアリング  ムーブについて  ランジ  デッドポイント  マントル  持ち替え  クロス  中継(飛ばし) | ◎  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  ◎  **・**  **・**  **・**  **・**  **・**  **・** | フットワークの実践  インサイド  アウトサイド  フラッキング  ヒールフック  トウフック  ニーバー  スメアリング  ムーブの実践  ランジ  デッドポイント  マントル  持ち替え  クロス  中継(飛ばし) |

コーチ２項目

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 安全対策 | ◎  ○ | 安全対策  スポットの必要性と重要性  スポットの基本 |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| スポーツクライミング | | | | | | | | |
|  | | | | | | | | |
| 大項目 | | 確保 | | | 大項目得点  (コーチ1/コーチ２) | | | 50/45　点 |
| 中項目 | | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | | | | |
| 指　　導　　法 | | | 実　　　　　技 | | | |
| トップロープ  クライミング | | ○  ◎  ◎  ◎  ◎  ○  **・**  ◎  ◎  ◎  **・**  **・** | ビレイグロ一ブ  ロープの準備  ロープの交差、末端処理  ビレイ方法  クライマー(誘導手)側ロープと制動手側ロープの持ち方  クライマーとの位置関係と体勢  ロープの取扱い  整理、踏み付け、周りへの配慮  停止(墜落)時の体勢  ロープの手操り方法  降ろし方  スピードコントロール  一定の速度で降ろし、最後の２～３メートルはゆっくり降ろす | | ○  ◎  ◎  〇  ◎  ◎  **・** | ビレイグローブの使用  ロープの準備  基本的なビレイの手順と動作  周囲(後方)の状況の確認  終了点での合図  ビレイデバイスの操作  スピードコントロール | | |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| リードクライミング | ○  ◎  ▪  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  **▪**  ▪  ▪  〇 | ビレイグロ一ブ  ロープの準備  さばき、末端処理、ロープバック  ビレイ方法  クライマー(誘導手)側ロープと制動手側ロープの持ち方  ロープ操作  立ち位置と体勢  クリップ時の体勢とロープ操作  クリップを失敗した時の対応  墜落時のビレイ動作  グランドフォールを避ける  壁への衝突を避ける  クライマーへの衝撃緩和  オーバーハングでのビレイ体勢 | ○  ◎  ◎  ◎  ◎  ▪  ◎  ◎  **・**  ◎  ◎  ◎  ◎  〇 | ビレイグローブの使用  ロープの準備  ビレイデバイスのセットが正確  ビレイデバイスの操作  ロープ操作  緩み、張りすぎ  立ち位置と体勢  クリップ時の動作  ロープの繰り出し  クリップを失敗した時の対応  墜落時のビレイ動作  壁への衝突をさけるロープの操作  衝撃を和らげるビレイ動作  オーバーハングでのビレイ体勢 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **スポーツクライミング** | | | |
|  | | | |
| 大項目 | セッティング | 大項目得点  (コーチ1/コーチ2) | 15/15　点 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 課題（ルート）セッティング | ◎ | 対象者に応じた課題設定 | ◎  **・** | 対象者に応じた課題設定  初心者・初級者 |
| 設定課題の難易度の判定 | ◎ | グレード判定のポイント  年令、男女、身長、レベル等の違い | ◎ | 設定してある課題のグレードを判定する |

コーチ２項目

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 指定グレードの  課題設定について |  |  | ◎ | 決めたテーマが盛り込まれた課題 |
| 課題（ルート）の  安全 | ◎  ◎  ◎ | クライマーの動きに配慮した設定をする  ゴールの位置  ホールドの固定方法 | ◎ | ムーブを起こした（失敗した）際に構造物等に干渉しない課題 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **スポーツクライミング** | | | |
|  | | | |
| 大項目 | 競技 | 大項目得点  (コーチ1/コーチ２) | 15/15　点 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 競技会  ボルダリング  リード | ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  ▪  ▪  ▪  **▪**  **▪** | 受付  アイソレーション  (アイソレーションオープン・クローズ)  オブザベーション  コールゾーン  注意事項  デマケーション  ブルークロス  クリップポイント  スタート  完登 | ◎ | マップ作成 |

コーチ2項目

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 競技会 |  |  | ◎ | ジャッジ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **スポーツクライミング** | | | |
|  | | | |
| 大項目 | 自然壁の技術 | 大項目得点  (コーチ２) | 30　点 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 自然壁 | ○ | 岩場の安全確認 |  |  |
| セカンドのビレイ | ◎  ◎  ◎ | セルフビレイ（自己確保）を取り作業をする  ビレイの場所と確保体勢  支点構築 | ◎  ◎  ◎  ◎ | セルフビレイ（自己確保）を取り作業をする  ビレイの場所と確保体勢  支点構築  セカンドのビレイ |
|  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中　項　目 | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 懸垂下降  (ラッペリング)と  ロワーダウン | ◎  ○  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  〇  ◎  〇  ▪  ◎ | 下降支点の選定と安全確認  スリング、カラビナ、残置ボルト  下降地点、着地地点の安全    セルフビレイ  バックアップについて  (フリクションノット等)  ロープの結索と末端処理  ロープの長さと下降距離  下降支点へのロープの掛け方  下降器(確保器)の使用・装着方法  下降器(確保器)へのロープの装着方法  下降器(確保器)の種類による相違点について  投下合図と下方確認  ロープ投下方法  ロープの処理  キンク、踏み付け、岩角への対処  バックアップについて  (最初に下降したクライマーによる) | ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  ◎  〇  ◎ | 下降支点の選定と安全確認  複数の支点  セルフビレイ  ロープの結索と末端処理  下降支点へのロープの掛け方  下降器(確保器)の装着  下降器(確保器)へのロープの装着  投下合図と下方確認  ロープ投下方法  バックアップ  (最初に下降したクライマーによる) |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 小　　　　　　　項　　　　　　　目 | | | |
| 指　　導　　法 | | 実　　　　　技 | |
| 下降動作 | ◎  ◎  〇  〇  ▪ | 下降する時の合図  下降時の体勢と注意  ロープの交差に対する配慮  途中でロープが絡まった場合の対処方法  ロープの仮固定 | ◎  ◎  ○  ○  〇 | 下降する時の合図  体が振られないように下降を開始する  下降時はロープに出来る限り衝撃を掛けない  ロープの交差に対する配慮  下降方向の確認  ロープの仮固定 |
| 着地**・**ロープの回収 | ◎  ◎  ○ | ロープの収縮、伸びへの配慮  着地地点での安全の確認  ロープの落下を考えて回収 | ◎  ◎ | 着地の体勢、到着の合図  ロープ回収時の安全対策、合図 |
| マルチピッチの下降 | ◎  ◎ | マルチピッチでの下降についての注意  回収方法  ロープ掛け替えの注意 |  |  |

# 別添資料

別添1：スポーツクライミングコーチ1養成講習会認定申請者　クライミング履歴書（記入例）

別添2：スポーツクライミングコーチ1養成講習会認定申請者　クライミング履歴書

別添3：スポーツクライミングコーチ2養成講習会認定申請者　クライミング履歴書（記入例）

別添4：スポーツクライミングコーチ2養成講習会認定申請者　クライミング履歴書

別添5：スポーツクライミングコーチ1検定得点表

別添6：スポーツクライミングコーチ2検定得点表

# 別添1：スポーツクライミングコーチ1養成講習会認定申請者　クライミング履歴書（記入例）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| スポーツクライミングコーチ1養成講習会認定申請者　クライミング履歴書　記入日　西暦　2017年　6月　8日 | | | | | |
| 私は、下記のとおり受講条件の5.10以上のリード、指導実績2年以上および20歳以上を満たしています。  　氏名　　日本　太郎　　　　　印  【クライミング履歴】※リード(必須)は5.10b以上、ボルダリングは5級以上を3ルート以上記入のこと | | | | | |
| 年 月 | ルート名及び岩場名 | 形状・内容　\*1 | グレード | スタイル　\*2 | 備考 |
| 2016年6月 | ＡＢＣクライミングジム | F・S・C・B | 5.10a | OS・RP |  |
| 2016年7月 | 小川山　レギュラー | F・S・C・B | 5.10c | OS・RP |  |
| 2018年9月 | 小川山　ブラックアンドホワイト | F・S・C・B | 5.10c | OS・RP |  |
| 2018年11月 | 笠置山　竜虎 | F・S・C・B | 5級 | OS・RP |  |
| 2019年3月 | 西日本クライミングジム | F・S・C・B | 5.11a | OS・RP |  |

\*1‐F:フェース、S:スラブ、C:クラック、B：ボルダリング。　\*2‐OS:オンサイト、RP:レッドポイント。

※ 5年以内の履歴を記入のこと。形状・内容は片寄らず、多様なクライミング技術が判る様な履歴。ルートは認知度の高いものが望ましい。

【競技履歴】

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　月 | 主催 | 大会名 | カテゴリー | 成績 | 備考 |
| 2017年6月 | 習志野市 | 習志野市民カップ | 一般男子 | 一般男子2位 |  |
|  |  |  |  |  |  |

【コーチ・監督・指導履歴】　※人工壁、クライミングジムでの指導実績も記入可能

|  |  |
| --- | --- |
| 年 | 自由表記　例）　○○国体成年男子監督　、○○講習会講師　等 |
| 2016年 | ＡＢＣクライミングジムにて初心者講習会2月～11月 |
| 2017年 | 西日本クライミングジムにて、リードクライミング講習会講師5回 |
|  |  |

# 別添2：スポーツクライミングコーチ1養成講習会認定申請者　クライミング履歴書

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| スポーツクライミングコーチ1養成講習会認定申請者　クライミング履歴書　　　西暦　　　 年　　 月　 日 | | | | | |
| 私は、受講条件の5.10以上のリード、指導実績2年以上および20歳以上を満たしています。  　氏名　　　　　　　　　　　　印  【クライミング履歴】※リード(必須)は5.10b以上、ボルダリングは5級以上を3ルート以上記入のこと | | | | | |
| 年 月 | ルート名及び岩場名 | 形状・内容　\*1 | グレード | スタイル　\*2 | 備考 |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B |  | OS・RP |  |

\*1‐F:フェース、S:スラブ、C:クラック、B：ボルダリング。　\*2‐OS:オンサイト、RP:レッドポイント。

※ 5年以内の履歴を記入のこと。形状・内容は片寄らず、多様なクライミング技術が判る様な履歴。ルートは認知度の高いものが望ましい。

【競技履歴】

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　月 | 主催 | 大会名 | カテゴリー | 成績 | 備考 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

【コーチ・監督・指導履歴】　※人工壁、クライミングジムでの指導実績も記入可能

|  |  |
| --- | --- |
| 年 | 自由表記　例）　○○国体成年男子監督　、○○講習会講師　等 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

# 別添3：スポーツクライミングコーチ2養成講習会認定申請者　クライミング履歴書（記入例）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| スポーツクライミングコーチ2養成講習会認定申請者　クライミング履歴書　記入日　西暦〇〇〇〇年〇月　〇日 | | | | | |
| 私は下記のとおり受講条件の5.11以上のリード、指導実績3年以上、  リード・懸垂下降を含むマルチピッチ経験および22歳以上を満たしています。  氏名　　日本　太郎　　　　　印  【クライミング履歴】※リード(必須)5.11a以上(3ルート以上)。ボルダリングは4級以上。マルチピッチ(必須)はグレードを問わず。 | | | | | |
| 年 月 | ルート名及び岩場名 | 形状・内容　\*1 | グレード | スタイル　\*2 | 備考 |
| 2015年6月 | ＡＢＣクライミングジム | F・S・C・B・M | 5.11a | OS・RP |  |
| 2015年7月 | 小川山　水曜日のシンデレラ | F・S・C・B・M | 5.11a | OS・RP |  |
| 2016年9月 | 城ケ崎　ホワイトシャーク | F・S・C・B・M | 5.11c | OS・RP |  |
| 2016年11月 | 恵那　ウイッキー | F・S・C・B・M | 3級 | OS・RP |  |
| 2017年3月 | 西日本クライミングジム | F・S・C・B・M | 5.11c | OS・RP |  |
| 2017年5月 | 小川山　セレクション | F・S・C・B・M | 5.9 | OS・RP | 懸垂下降で下山 |

\*1‐F:フェース、S:スラブ、C:クラック、B：ボルダリング、Ｍ：マルチピッチ。　\*2‐OS:オンサイト、RP:レッドポイント。

※ 5年以内の履歴を記入のこと。形状・内容は片寄らず、多様なクライミング技術が判る様な履歴。ルートは認知度の高いものが望ましい。

【競技履歴】

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　月 | 主催 | 大会名 | カテゴリー | 成績 | 備考 |
| 2018年7月 | ○○県山岳連盟 | 国体選考大会 | 成年男子 | 成年男子3位 |  |
|  |  |  |  |  |  |

【コーチ・監督・指導履歴】　※人工壁、クライミングジムでの指導実績も記入可能

|  |  |
| --- | --- |
| 年 | 自由表記　例）　○○国体成年男子監督　、○○講習会講師　等 |
| 2016年～ | ＡＢＣクライミングジムにて初心者講習会2月～11月 |
| 2017年 | 国体監督（成年男子） |
| 2018年 | ○○県ジュニア選手コーチ（4月～10月） |

# 別添４：スポーツクライミングコーチ2養成講習会認定申請者　クライミング履歴書

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| スポーツクライミングコーチ2養成講習会認定申請者　クライミング履歴書　　記入日　西暦　　年　　月　　日 | | | | | |
| 私は下記のとおり受講条件の5.11a以上のリード、指導実績3年以上、  リード・懸垂下降を含むマルチピッチ経験および22歳以上を満たしています。  氏名　　　　　　　　　　　　印  【クライミング履歴】※リード(必須)5.11a以上(3ルート以上)。ボルダリングは4級以上。マルチピッチ(必須)はグレードを問わず。 | | | | | |
| 年 月 | ルート名及び岩場名 | 形状・内容　\*1 | グレード | スタイル　\*2 | 備考 |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |
|  |  | F・S・C・B・M |  | OS・RP |  |

\*1‐F:フェース、S:スラブ、C:クラック、B：ボルダリング、Ｍ：マルチピッチ。　\*2‐OS:オンサイト、RP:レッドポイント。

※ 5年以内の履歴を記入のこと。形状・内容は片寄らず、多様なクライミング技術が判る様な履歴。ルートは認知度の高いものが望ましい。

【競技履歴】

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　月 | 主催 | 大会名 | カテゴリー | 成績 | 備考 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

【コーチ・監督・指導履歴】　※人工壁、クライミングジムでの指導実績も記入可能

|  |  |
| --- | --- |
| 年 | 自由表記　例）　○○国体成年男子監督　、○○講習会講師　等 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

# 別添5：スポーツクライミングコーチ1検定得点表

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **スポーツクライミングコーチ1検定得点表** | | | | | | | | | | | | | | | |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 岳連（協会）名 | |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 主任検定員名 | |  |  | 印 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| No | 氏　　名 | （２）指導法・実技 | | | | | | | | | | | | （１）  基礎理論 | 合計  （２）  ＋  （１） |
| ①用具 | | ②クライミング | | ③確保 | | ④セッティング | | ⑤競技 | | 小計 | |
| (50) | | (70) | | (50) | | (15) | | (15) | | (200) | | (100) |
| 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 学科 |
| (30) | (20) | (35) | (35) | (25) | (25) | (5) | (10) | (5) | (10) | (100) | (100) | (100) | (300) |
| 1 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 3 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 4 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 5 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 6 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 7 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 8 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 9 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 10 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

# 別添6：スポーツクライミングコーチ2検定得点表

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | |  | **スポーツクライミングコーチ2検定得点表** | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 岳連（協会）名 | |  |  |  |  |  |
|  |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 主任検定員名 | |  |  |  |  | 印 |
|  |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| No | 氏　　名 | | | （２）指導法・実技 | | | | | | | | | | | |  | | （１）  基礎理論 | 合計  （２）  ＋  （１） | |
| ①用具 | | ②クライミング | | ③確保 | | ④セッティング | | ⑤競技 | | ⑥自然壁の　技術 | | 小計 | |
| (40) | | (55)  ) | | (45) | | (15) | | (15) | | (30) | | (200) |  | (100) |
| 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 指導法 | 実技 | 学科 |  |
| (20) | (20) | (30) | (25) | (25) | (20) | (5) | (10) | (5) | (10) | (15) | (15) | (100) | (100) | (100) | (300) |
| 1 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 3 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 4 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 5 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 6 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 7 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 8 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 9 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 10 |  | | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

公認スポーツクライミングコーチ

関係規程・規約および検定基準

（コーチ１・２・３・４）

【令和３（２０２１）年度版】

発行日

平成１１年０５月１３日初版

平成２４年０４月０１日改訂

平成２５年０６月０１日改訂

平成２８年０４月０１日改訂

令和 元年１０月１０日改訂

令和　２年１０月１日改訂

令和　３年８月１２日改訂

編集者 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会

スポーツクライミング指導委員会

発行者 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会

〒160-0013　東京都新宿区霞ケ丘町４番２号

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 807

電話 03-5843-1631

FAX 03-5843-1635